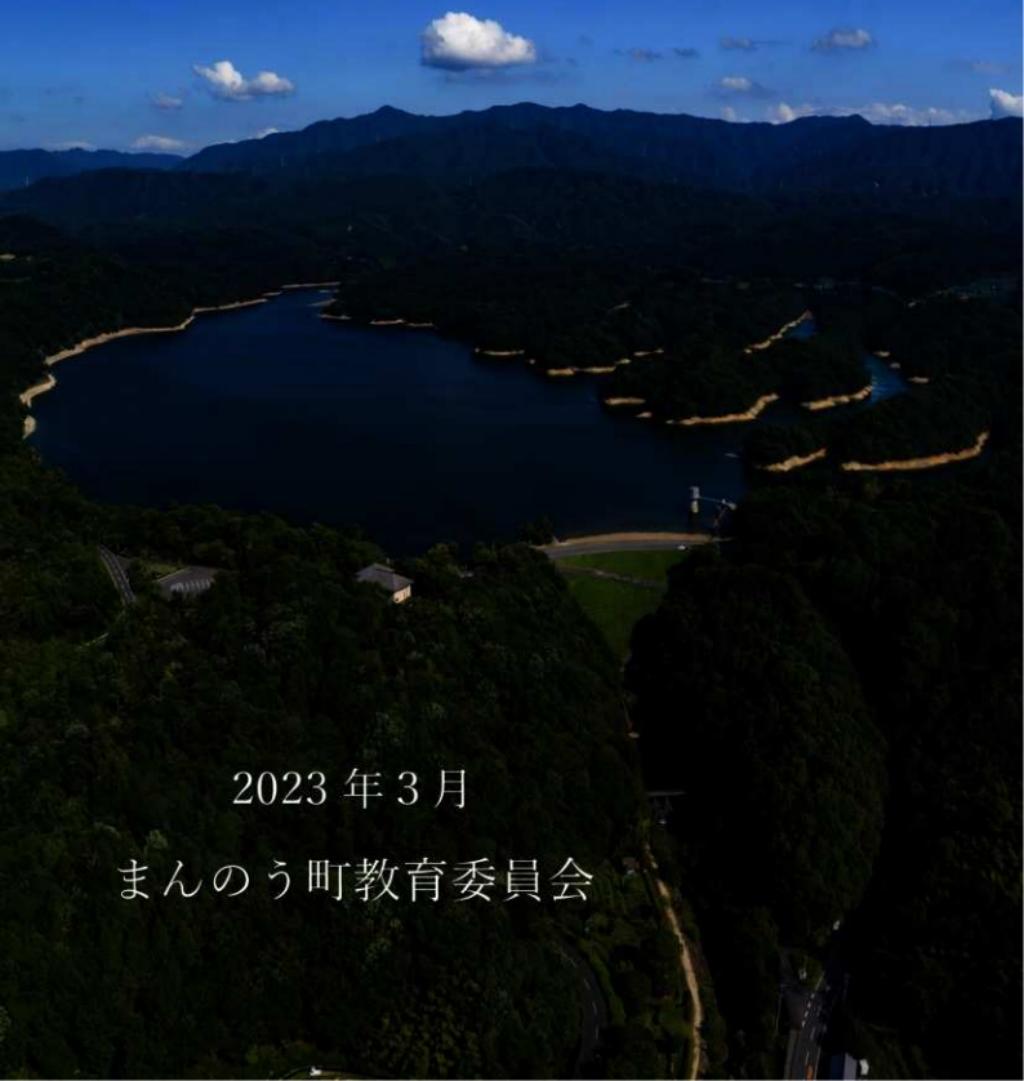


# 名勝満濃池保存活用計画書



2023年3月

まんのう町教育委員会



## 序 文

満濃池は、香川・徳島県境の讃岐山脈から北へ延びる丘陵を開析した谷底低地の狭窄部に堤塘を築造したアーチ式アースダムのため池であり、満水面積 138.5ha、貯水容量 1,540 万 m<sup>3</sup> を誇る灌漑目的としては我が国最大のため池であります。

満濃池は 2019(令和元)年 10 月 16 日に国の名勝に指定されました。名勝満濃池の指定地は約 264ha の広大な面積を測り、所有者及び管理者は満濃池土地改良区・国・県・町・民間など非常に多岐にわたり、保存管理方法の統一化が喫緊の課題となっています。

2020(令和 2 )年 3 月 10 日まんのう町は名勝満濃池の管理団体の指定を受けました。管理団体として名勝満濃池の価値を保存し、次世代へ確実に伝えていくための保存管理の徹底と、名勝満濃池の魅力を活かした活用推進を目的とし、本保存活用計画を策定し、保存・活用・整備の基本の方針とその方法を定めるものであります。

最後になりましたが、本計画を策定するにあたり、ご協力いただきました国指定名勝満濃池保存活用計画策定委員会、文化庁、香川県教育委員会、各関係機関、地元関係者の皆様方に、心から感謝申し上げます。

令和 5 年 3 月

まんのう町教育委員会  
教育長 井上勝之

## 例　　言

1. 本書は、香川県仲多度郡まんのう町に所在する、国指定名勝「満濃池」の保存活用計画書である。
2. 本計画は、まんのう町教育委員会が、文化庁の国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金史跡等保存活用計画策定事業の採択を受け、2020(令和2)年度から2022(令和4)年度の期間で策定した。
3. 本計画は、有識者および関係者で構成する「国指定名勝満濃池保存活用計画策定委員会」の指導・助言を受け、まんのう町教育委員会生涯学習課文化財室が事務局となり策定した。
4. 本計画の策定にあたっては、その業務の一部を株式会社四航コンサルタントに委託した。
5. 挿図の一部に、国土地理院長の承認及び助言を得て、同院所管の測量標及び測量成果を使用して得た、平成20年3月測図まんのう町1:2,500地形図を縮小編集した、まんのう町全図(1:10,000、承認番号 平19 四公 第4号)を使用した。
6. 本計画の内容に関しては、文化庁及び香川県教育委員会から指導と助言を頂き策定した。
7. 本計画は、2023年(令和5年)4月1日から実施する。

## 目 次

### 第1章 計画策定の経緯経過

第1節 計画策定の沿革と目的	1
第2節 委員会の設置と経過	2
第3節 他の計画との関係	4
第4節 計画の対象範囲	7
第5節 計画の実施	7

### 第2章 名勝満濃池を取り巻く環境

第1節 まんのう町の概況	9
第2節 自然環境	9
1 まんのう町の地形・地質	9
2 満濃池及び周辺の詳細地質	12
3 まんのう町の気候	13
4 まんのう町の植生	15
第3節 歴史環境	19
1 まんのう町の歴史	19
2 まんのう町にある指定文化財等	20
第4節 社会環境	23
1 まんのう町の人口と推移	23
2 まんのう町の産業構造	24
3 まんのう町の交通・観光資源・公園・社会教育施設	25
(1) 交通環境	26
(2) 観光資源	26
(3) 公園	30
(4) 社会教育施設	33
4 満濃池の受益範囲と用水系統	36
5 満濃池の名所等の選定状況	38
6 満濃池周辺の土地利用と法規制	39
(1) 都市計画区域	39
(2) 文化財保護法による周知の埋蔵文化財包蔵地	39
(3) 都市公園法並びに香川県森林公園条例による公園区域	39
(4) 河川法に基づく河川区域	39
(5) 道路法に基づく道路区域	39
(6) 土砂災害防止法に基づく土砂災害警戒区域	39
(7) 森林法に基づく保安林区域	39

### 第3章 名勝満濃池の概要

第1節 指定に至る経緯	41
-------------	----

第 2 節 指定の状況	41
1 指定状況	41
2 指定説明文	43
第 3 節 指定に至る調査成果	44
1 概要	44
2 沿革	45
3 名所としての満濃池の風景認識	46
(1) 広大なスケールに対する感嘆と畏怖	46
(2) 固有の周辺環境と一体的に捉える視座	47
(3) 歴史的・社会的価値	50
(4) 近代以降の風景認識の変容と継承	50

#### 第 4 章 本質的価値と構成要素

---

第 1 節 名勝満濃池の本質的価値	53
第 2 節 満濃池の風景の構成と構成要素	54
1 風景の構成	54
2 構成要素の分類	55
(1) 指定地域内	55
ア. 本質的価値を構成する要素	55
イ. 本質的価値に関連する要素	55
ウ. 保存活用に資する要素	55
エ. その他の要素	55
(2) 指定地域外	55
ア. 本質的価値に関連する要素	55
イ. 保存活用に資する要素	55
(3) 本質的価値の背景を構成する要素	56
3 各要素の概要	57
(1) 本質的価値を構成する要素	57
(2) 本質的価値に関連する要素	64
(3) 保存活用に資する要素	69
(4) 本質的価値に関連する要素(指定地域外)	69
(5) 本質的価値の背景を構成する要素	70
第 3 節 多様な視点場	74

#### 第 5 章 現状と課題

---

第 1 節 名勝満濃池の土地利用と土地所有	81
第 2 節 課題整理のための地区設定	84
第 3 節 名勝満濃池の現状と課題(全体に共通するもの)	86
1 保存管理の現状と課題	86
(1) 現状	86
(2) 課題	86

2	活用の現状と課題	88
(1)	現状	88
(2)	課題	90
3	整備の現状と課題	90
(1)	現状	90
(2)	課題	91
4	運営・体制の現状と課題	91
(1)	現状	91
(2)	課題	91
第4節	名勝満濃池の現状と課題（地区ごと）	92
1	A地区の現状と課題	92
(1)	現状	92
(2)	課題	92
2	B地区の現状と課題	95
(1)	現状	95
(2)	課題	95
3	C地区の現状と課題	99
(1)	現状	99
(2)	課題	99
4	D地区の現状と課題	102
(1)	現状	102
(2)	課題	102
5	E地区の現状と課題	106
(1)	現状	106
(2)	課題	106
6	F地区の現状と課題	108
(1)	現状	108
(2)	課題	108
7	G地区の現状と課題	110
(1)	現状	110
(2)	課題	110

## 第6章 保存活用の理念と基本方針

---

第1節	保存活用の理念	112
第2節	保存活用の基本方針	113

## 第7章 保存管理

---

第1節	保存管理の方向性	115
第2節	保存管理区分	115
第3節	名勝指定地域の保存管理の方法	117
1	日常的な管理	117

2	非常時の対応	119
第4節	現状変更の取扱い	120
1	法令に基づく現状変更等の考え方	120
2	現状変更等の基本方針と取扱い基準	122
第5節	周辺部の保存管理の方法	123
1	周辺部の保存管理の状況	123
2	方法	124
第6節	追加指定と公有化の方針	124
1	名勝の追加指定	124
2	名勝指定地域の公有化	124
第7節	調査研究	124
1	調査研究の考え方	124
2	調査研究の内容	124

## 第8章 活用

---

第1節	活用の方向性	125
第2節	活用の方法	125
1	魅力に触れる機会の創出	125
(1)	情報発信	125
(2)	学校教育での活用	126
(3)	生涯学習での活用	126
2	活用推進のための連携	126
(1)	満濃池関係諸団体等との連携	126

## 第9章 整備

---

第1節	整備の方向性	127
第2節	整備の方法	127
1	保存のための整備	127
(1)	植生のコントロール	127
(2)	保存のための表示物の設置	127
2	活用のための整備	128
(1)	視点場の整備	128
(2)	解説板・案内板等の整備	128
(3)	展示・案内施設の整備	128
(4)	来訪者の安全確保のための整備	128
第3節	整備計画策定の検討	128

## 第10章 運営・体制の整備

---

第1節	運営・体制の方向性	129
第2節	運営・体制の整備方法	129

## 第 11 章 施策の実施計画

---

第 1 節 施策の実施計画	130
第 2 節 施策の実施方法・期間	130
1 短期計画（計画策定後 10 年間）	130
2 中長期計画（10 年以降）	131

## 第 12 章 経過観察

---

第 1 節 経過観察の方向性	132
第 2 節 経過観察の方法	132

## 巻末資料

---

・文化財保護法（抄）	135
・文化財保護法施行令（抄）	146
・特別史跡名勝天然記念物又は史跡名勝天然記念物の現状変更等の許可申請等に関する規則（抄）	148
・特別史跡名勝天然記念物又は史跡名勝天然記念物の管理に関する届出書等に関する規則	150
・特別史跡名勝天然記念物又は史跡名勝天然記念物の復旧の届出に関する規則	150
・文化財保護法施行令第五条第四項第一号イからリまでに掲げる史跡名勝天然記念物の現状変更等の許可の事務の処理基準について	151
・史跡名勝天然記念物標識等設置基準規則	154



## 第1章 計画策定の経緯経過

### 第1節 計画策定の沿革と目的

満濃池は2019(令和元)年10月16日に国の名勝に指定された。名勝満濃池の指定地は約264haの広大な面積を測り、所有者及び管理者は満濃池土地改良区・国・県・町・民間など非常に多岐にわたるため、名勝満濃池の価値の保全を図る上で、保存管理方法の統一化が緊急の課題である。また、護岸や管理施設などの老朽化や近年拡大する自然災害に対する対応も緊急性を有する課題である。また、満濃池は町名の由来ともなった、地域を代表する身近な風致景観であり、今後は関係者・関係機関の同意協力の下に名勝の保護を図る必要がある。

2020(令和2)年3月10日まんのう町は名勝満濃池の管理団体の指定を受けたことから、管理団体として名勝満濃池の価値を保存し、次世代へ確実に伝えていくための保存管理の徹底と、名勝満濃池の魅力を生かした活用推進を目的とし保存活用計画を策定する。保存活用計画の策定にあたっては、指定範囲が広大で利用状況が多様な名勝満濃池の現状における優先課題を調査・抽出し、各関係機関と協力して、多様な価値を持つ満濃池の魅力を味わい、楽しむことのできるように、保存・活用・整備の基本的指針とその方法を定めるものとする。

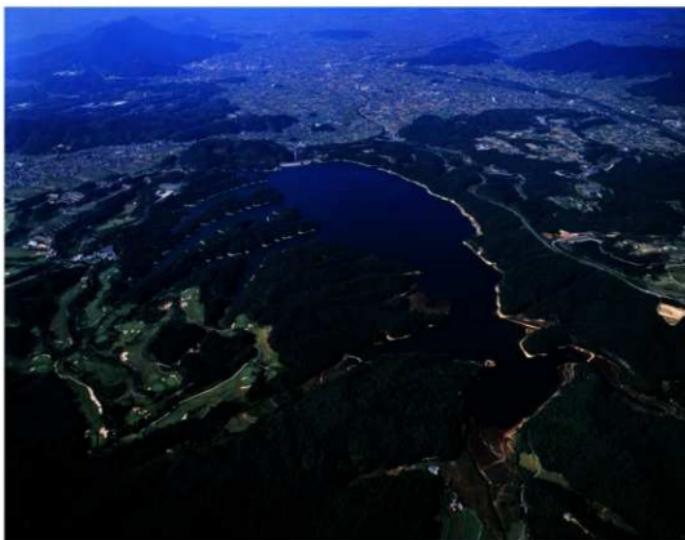


写真1-1 満濃池全景(南より)

## 第2節 委員会の設置と経過

まんのう町は、国指定名勝満濃池の保存・管理・活用に関して万全を期するため、国指定名勝満濃池保存活用計画策定委員会を令和2年8月28日に設置した。国指定名勝満濃池保存活用計画策定委員会は、令和2～4年度の3ヵ年において7回開催し、満濃池保存活用計画策定に関する協議・検討を行った。本委員会の経過は下記の通り。

- ・第1回委員会

日時：令和2年8月28日(金)

内容：委員委嘱、委員長・副委員長選出、保存活用計画策定の目的と計画案の提示、本質的価値・構成要素・地区区分及び調査項目についての検討

- ・第2回委員会

日時：令和3年3月9日(火)

内容：現状と課題についての検討、第1章～第5章までの文書案についての検討

- ・第3回委員会

日時：令和3年7月29日(木)

内容：第1章～第5章までの文書案についての再検討

- ・第4回委員会

日時：令和4年1月31日(月)

内容：第1章～第5章までの文書案についての再検討、第6章についての検討

- ・第5回委員会

日時：令和4年3月29日(火)

内容：第7章～第12章についての検討

- ・第6回委員会

日時：令和4年6月27日(月)

内容：第7章～第12章についての検討

- ・第7回委員会

日時：令和5年2月18日(土)

内容：計画全体の検討

- ・パブリックコメント実施日 令和5年2月27日(月)～3月15日(水)



写真1-2 国指定名勝満濃池保存活用  
計画策定委員会(第2回)

国指定名勝満濃池保存活用計画策定に係る体制は下記に示すとおりである。

- ① まんのう町教育委員会生涯学習課文化財室は、名勝満濃池保存活用計画の原案を作成し、保存活用計画策定委員会に報告・提案して意見(指導・助言)を求める。
- ② 国指定名勝満濃池保存活用計画策定委員会は、この原案について協議・検討し(必要に応じて、アドバイザー、その他関係者等の意見を聞く)、その結果を、生涯学習課文化財室に回答(指導・助言)する。なお、委員会の庶務は生涯学習課文化財室が担当する。
- ③ 生涯学習課文化財室は、保存活用計画策定委員会からの回答を受けて、保存活用計画を策定する。

#### 国指定名勝満濃池保存活用計画策定委員会

委員長	増田拓朗	(造園学、緑化工学 香川大学名誉教授)
副委員長	田中健二	(日本中世史 香川大学名誉教授)
委員	井原 緑	(造園学、環境デザイン学 奈良県立大学教授)
	角道弘文	(農業土木学、農村計画学 香川大学創造工学部教授)
	國重 進	(満濃池土地改良区 理事長)
	五所野尾優	(まんのう町文化財保護審議会会長)
	藤田昌大	(まんのう池コイネット代表)
	菅原良弘	(まんのう町文化財保護協会会长)

#### オブザーバー 文化庁文化財第二課名勝部門

香川県教育委員会事務局生涯学習・文化財課

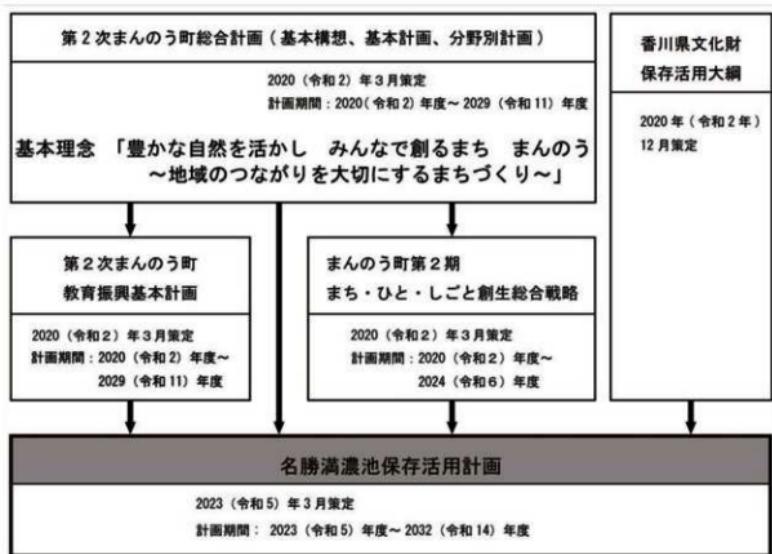
#### 事務局 まんのう町教育委員会生涯学習課

細原敬弘	(まんのう町教育委員会生涯学習課課長：令和2～3年度)
亀井真治	(まんのう町教育委員会生涯学習課課長：令和4年度)
加納裕之	(まんのう町教育委員会生涯学習課文化財室)
中村文枝	(まんのう町教育委員会生涯学習課文化財室)

### 第3節 他の計画との関係

まんのう町の「第2次まんのう町総合計画」(基本構想・基本計画・分野別計画)：2020<令和2>年3月策定では、基本目標「自ら学び・支えあうまち」の施策分野である「人生を豊かにする生涯学習の推進(生涯学習・生涯スポーツ)」の基本施策「文化の保全・活用」において、満濃池をはじめとする貴重な歴史文化の保全と活用に努める方針が示されており、本計画はこの主旨と整合するものである。また、関連する「第2次まんのう町教育振興基本計画(2020<令和2>年3月策定)」においても、今後5年間で取り組む施策の一つとして「歴史・文化の継承」を掲げ、満濃池をはじめとする郷土の伝統・文化へ子どもたちの理解を深め、ふるさとへの誇りと愛着を醸成する基本的方向性が示されており、本計画はそれぞれの計画と整合している(第1-1図)。

また、香川県全域の文化財の保存と活用を進めていくために必要な基本的な方針を定めた「香川県文化財保存活用大綱」においては、香川県の歴史文化の特徴として、厳しい干ばつによる水不足は近年まで深刻であり、ため池などの構造物や独自の文化を育むことともなったことをあげ、満濃池を香川県の歴史文化を代表する文化財として位置付けている。



第1-1図 まんのう町及び香川県上位計画・関連計画と本計画との関係

## 参考資料

### ・第2次まんのう町総合計画(抄)

策定: 2020(令和2)年3月 計画期間: 2020(令和2)年~2029(令和11)年

## II 基本構想

### 第1章 まちづくりの基本理念

温暖で晴天が多い気候、四季折々の草花や紅葉、生態系が保たれた生き物たち、ため池や香川用水の恩恵を受ける水環境など、豊かな自然に囲まれた私たちまんのう町民は、日々の暮らしやしごとの中で、この自然の恵みを活かしていきます。

### 基本目標1 自ら学び・支えあうまち

#### 政策目標2 豊かな学びと生きがいを育む(教育・スポーツ)

本町で育つ子どもたちが、乳幼児期から学齢期にかけて、地域の様々な人々と関わりながら、成長段階に即した適切な知識・知恵・道徳や、体力、豊かな情操を獲得し、たくましく健やかに成長していくよう、就学前教育・学校教育の充実に努めます。また、少子化や晚婚化、子育て不安など、子育てをめぐる諸問題に対応し、安心して子どもを産み育てられるよう、子ども・子育て支援施策の充実に努めます。

さらに、町民一人ひとりが、生涯を通じて、自身の興味・関心に応じて、学習活動や文化・芸術活動、スポーツ活動を楽しめるよう、生涯学習・生涯スポーツの振興に努めます。

### 基本目標2 農林商工・観光が息づくまち

#### 政策目標4 “しごと”を創出する(産業振興)

観光については、満濃池の観光地としての魅力の底上げ、町内宿泊機能の強化促進などにより、町内・近隣市町の観光資源の周遊ネットワークの強化を図ります。

## III 基本計画

### 基本目標1 自ら学び・支えあうまち

#### 2・豊かな学びと生きがいを育む(教育・スポーツ)

##### 2-3 人生を豊かにする生涯学習の推進(生涯学習・生涯スポーツ)

###### ・現状と課題

指定文化財をはじめとする本町の貴重な歴史文化を後世に継承していくとともに、かがわ山みなみ芸術祭に代表される新たな文化創造の取り組みを発展させていくことが求められます。

###### ・基本施策(4)文化の保全・活用

綾子踊、大川念佛踊、中寺廃寺跡、満濃池をはじめとする貴重な歴史文化的な保全と活用に努めるとともに、芸術鑑賞会などを通じて町民が優れた芸術にふれる機会づくりに努めます。また、新たな文化創造の取り組みに対して、必要な支援を行っていきます。

### 基本目標2 農林商工・観光が息づくまち

#### 4.“しごと”を創出する(産業振興)

##### 4-3 自然を生かした“まんのう観光”的活性化(観光)

###### ・現状と課題

観光のまち琴平に近接し、国営讃岐まんのう公園では中四国最大規模の野外音楽イベント「モンスター・バッシュ」が開催されるという好条件を、まちづくりに十分に生かせていないことが課題であり、本町の特性である豊かな自然や歴史文化の魅力を材料に、観光地としてのグレードアップを図っていくことが求められます。

世界から高い評価を受けた日本最大級の大ささを誇る「満濃池」を、水源としての活用だけでなく、弘法大師・空海が修築したという歴史的な価値を大切にしながら観光資源として活用できるよう、一周遊歩道の整備などを進めています。

###### ・基本的な方向

満濃池を中心に、既存の観光資源の魅力向上を図るとともに、希少性を感じる土産品や観光サービスの開発に努め、観光地としてのグレードアップを図ります。

###### ・基本施策

###### (1)既存の観光資源の魅力向上

満濃池一周遊歩道の整備を推進するなど、既存の観光資源の魅力向上に努めます。

### ・第2次まんのう町教育振興基本計画(抄)

策定：2020(令和2)年3月 計画期間：2020(令和2)年～2029(令和11)年

#### 第2部 基本計画

##### 第2章 今後5年間で取り組む施策

###### 6 歴史・文化の継承

###### ・施策の展開

###### 1 文化財の保護と継承

国の名勝に指定された「満濃池」をはじめ、佐文地区の国指定重要無形民俗文化財「綾子踊り」や国指定史跡「中寺廃寺跡」など郷土の伝統・文化への子どもたちの理解を深め、ふるさとへの誇りと愛着を醸成し、それを継承・発展させるための、ふるさと教育を推進します。また、香川県やまんのう町におけるふるさと学習を推進し、ふるさと教材の活用や、町に残されている歴史的建造物や史跡、民具展示室、民俗芸能等、文化的遺産を活用した参加型学習の機会の充実に努めます。

また、次世代へ文化財を継承していくために、町の文化財を保護・継承する人材の育成と確保に努めます。

###### 2 文化財の調査と活用

町内にある未確認の埋蔵文化財の発掘や、未調査の文化財の調査を進めるなど、町の魅力を高めるための取組を推進します。また、町民や観光客が本町の歴史・文化に触れ、学びを深めることができるよう、かりん会館や琴南ふるさと資料館、まんのう町民具展示室、二宮忠八飛行館、さらには町立図書館等での収集・展示の充実を図ります。さらに、文化財を活用した町の活性化に向けて、まんのう町文化財保護協会と連携し、文化財の保護や維持管理を支える文化財ボランティアの育成や、町の文化財資源の魅力を伝えるボランティアガイドの育成支援を行います。

### ・まんのう町第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略(抄)

策定：2020(令和2)年3月 計画期間：2020(令和2)年～2024(令和6)年

#### 第3章 分野別施策の展開

##### 第3節 地域資源を活かして産業が輝くまんのう(しごとの創生)

###### (1)まんのう観光の底上げ

まんのう町の魅力を多くの人が知り、まんのう町に住みたいと思う人が増えるよう、また、地域産品の販売などにより地域の経済の持続的な発展を図るために、観光の底上げを図ります。本町の最大の観光資源は、豊かな自然と食、歴史・文化であり、近年増加しているインバウンドの需要を取り込みながら、農林業体験の拡充、満濃池、国営讃岐まんのう公園、香川県満濃池森林公園の觀光資源としての機能強化や体験型観光を促進し、交流人口を拡大させるための觀光資源のブラッシュアップや情報発信の強化などを通じて、まんのう型グリーン・ツーリズムを確立していきます。

###### ・具体的な施策

###### 「まんのう3大観光資源の魅力化」(企画観光課)(生涯学習課)

満濃池、国営讃岐まんのう公園、香川県満濃池森林公園の連携の強化を図り、3施設の滞在時間の拡大、サイクリングなどの周遊、ホタルをはじめとする動植物の保全と観光活用など、觀光拠点としてのレベルアップと情報発信強化を図っていきます。

【個別項目】・町内各所への觀光サインの設置(新規)・満濃池一周遊歩道整備事業(継続)

・満濃池周辺滞在イベント事業(新規)

・香川県文化財保存活用大綱(抄)

策定：2020(令和2)年12月

## 第1章 香川県の歴史文化

### 第1節 歴史文化の特徴

#### 3 濑戸内の風土に育まれた歴史・文化・暮らし(歴史文化の特徴)

##### 4)さぬき野を拓く

###### ・地域開発とため池

平野部では、稻作農耕の開始以降、水田、灌漑水路の敷設等によって自然地形を利用した土地開発が進んでいく。古代以降に低地部の土地の平坦化が進むとともに、南海道という陸路の整備とグランドデザインである条里地割が施工され、現在に至るまで地割や景観を規定している。その後、各地で新田開発や、灌漑水路の整備や再整備が繰り返されていく。しかし、降水量の少ない気候に加え、山が浅く河川が急流で、流水の利用が困難な環境によって、干ばつに悩まされてきた。そのため、低地部では旧河道等に起因する伏流水を活用した出水や河川から水を引く井手(用水)を古くから活用するとともに、満濃池(国名勝)に代表される、谷地形や平野部の伏流水などの自然環境を巧みに利用したため池の築造が古くから行なわれてきた。こうした状況は江戸時代でも変わらず、ため池の築造などの治水事業が進められ、約14,600箇所に及ぶ。西嶋八兵衛による龍灌池、小田池などの築造、元暦元(1184)年の洪水によって決壊したままの満濃池の修築は代表的な事例である。近代以降も干ばつは相変わらず大きな課題で、昭和5年の豊稔池堰堤(重文)に代表されるように、新たな技術によるため池の拡張やダムの新設が進められる。戦後に、積年の水不足解消のため、吉野川総合開発の一環として香川用水の整備が進められ、昭和49(1974)年に通水に至り、水の確保が安定化する。

##### ・水にまつわる文化

干ばつによる水論(争い)は古くから度々生じ、様々な水利慣行があった。水ブニと呼ばれる用水権が定められており、分け前や人生における運の量を表す方言「ぶに」という言葉とともに用いられているように、水利権は極めて重要であった。一方で、念仏踊、盆踊等を神仮へ奉納すること、もらい火やもらひ水を村へと運ぶことなどを行うことで、降雨を祈願してきた。滝宮の念仏踊(国重無民)、綾子踊(国重無民)、坂本念仏踊(県無民)等は雨乞い文化の代表例である。また、ひょうげ祭り(県有民・市無民)や小豆島の農村歌舞伎(重有民、県無民)等の水にまつわる祭礼も行ってきた。

## 第4節 計画の対象範囲

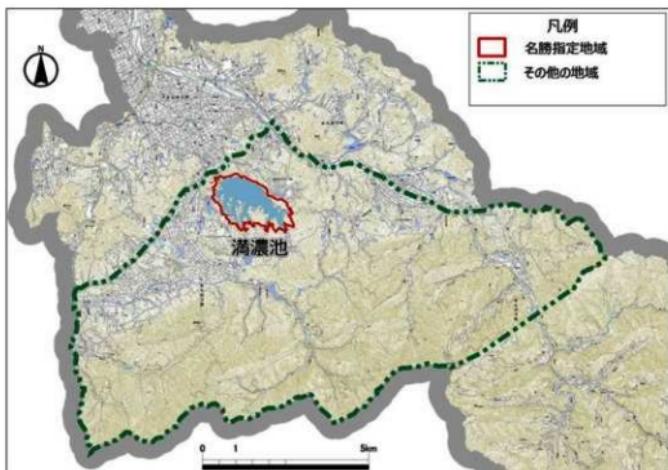
本計画の対象範囲は、第1-2図のとおり名勝指定地(2,638.815.09 m<sup>2</sup>)と、地権者の同意を得られておらず今後の追加指定を要する「保護を要する地域(未指定)」がある(「名勝指定地域」とする)。また、第1-3図のとおり風景の観賞上一定の重要性を有する「その他の地域」が存在することから、本計画において言及する場合がある。

## 第5節 計画の実施

本計画は、2023(令和5)年4月から実施する。記載された事項の進展や取り巻く周囲の状況の変化に伴い見直しを図るため、実施から概ね10年間を計画期間とする。なお、保存管理における現状・課題の大幅な変化や、活用・整備における各種施策の実施等による大幅な状況変化等が生じた場合には、必要に応じて隨時改定を行う。



第1-2図 満濃池名勝指定地域



第1-3図 満濃池保存活用計画対象範囲図

## 第2章 名勝満濃池を取り巻く環境

### 第1節 まんのう町の概況

まんのう町は、香川県南西部に位置し、人口 17,569 人(2023<令和 5>年 2 月 1 日時点)、町域面積 194.45 km<sup>2</sup>の自治体であり、2006(平成 18)年 3 月 20 日に香川県仲多度郡の満濃町、仲南町、琴南町が合併してまんのう町となった。町域の南側には標高 1,000m を超える竜王山(1,059 m)、大川山(1,042 m)を主峰とする讃岐山脈が連なり、町域北部は讃岐平野の肥沃な土壌が広がる農村の景観を残しつつ、新興住宅建設も行われるなど、豊かな自然と共生を図りつつ快適で便利な生活ができるまちとして発展してきた。町の中央には町名の由来となった日本最大の灌漑用ため池「満濃池」が位置し、自然と人々の営みが調和した町のシンボルとなっている。

### 第2節 自然環境

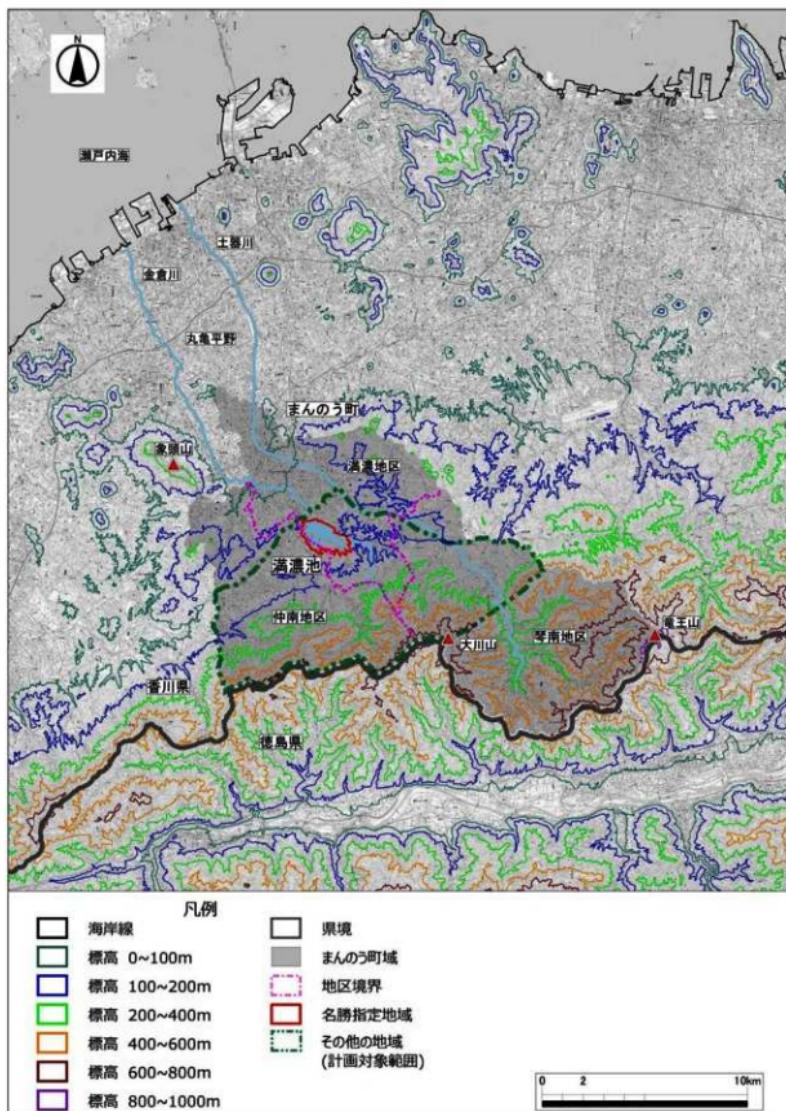
#### 1 まんのう町の地形・地質

第2-1 図に示すとおり、まんのう町はその町域の多くを山地が占める。南には竜王山(1,059 m)や大川山(1,042 m)を主峰とする讃岐山脈が標高 600m~1,000m と一定高性の良い尾根を連ねている。その北側に広がる丘陵性の山地は標高 400m~600m で、この高度は瀬戸内方向に向かって階段状に落ちていき、沿岸部では 100m~200m の小高い丘陵となる。まんのう町の平野部は讃岐山脈に源を発する土器川と金倉川が形成した丸亀平野の扇状地部分となる。標高 60m ~100m のこの扇状地には多くのため池が造られており、地勢の特徴の一つとなっている。満濃池は讃岐山脈に源を持つ金倉川が下刻することによって形成した開析谷の狭窄部に堤体を構築することによりため池となる。

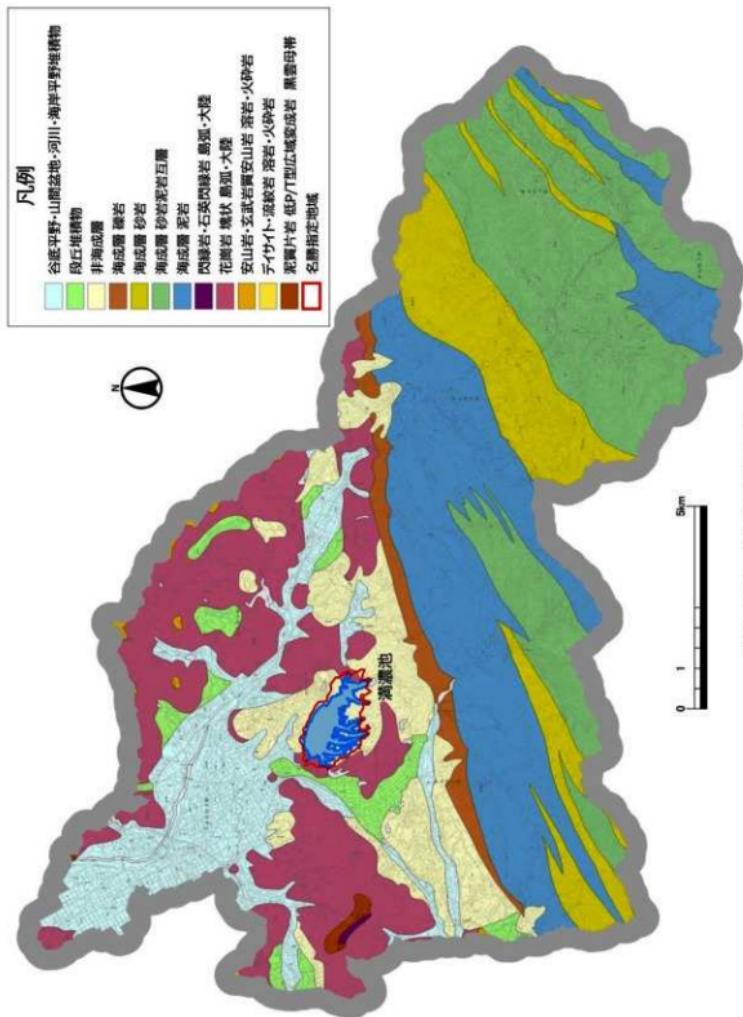
町域の多くを占める山地は南側に標高 600m~1,000m の讃岐山脈が、その北側に標高 400m ~600m の丘陵が広がっている。第2-2 図に示すとおり、讃岐山脈は白亜紀後期に形成された和泉層群で、主に砂岩、泥岩で構成され、この北側の丘陵部は白亜紀に形成された領家花崗岩類と第四紀の河湖成層の三豊層群及び焼尾峰礫層で構成されている。これらの境界には江畠断層が走る。江畠断層の下盤側にある三豊層群財田層は、和泉層群の砂岩礫・泥岩礫、三波川変成岩類の片岩礫を含んでいる。片岩礫は、四国山地から供給されたと推定されている。財田層が堆積した 120 万年前から 210 万年前には、讃岐山脈は現在のような起伏がなく、古吉野川が讃岐山脈を越えて香川県側に流れ、その後中央構造線と江畠断層などの断層活動によって讃岐山脈が隆起した結果、四国山地からの流路が断たれたと推定される。

#### 引用・参考文献

- ・Akira Sangawa (1978) Geomorphic development of the Izumi and Sanuki Ranges and relating crustal movement. Sci. Rep. Tohoku Univ., 7 Ser. (Geography), 28, 313-338.



第2-1図 まんのう町位置図

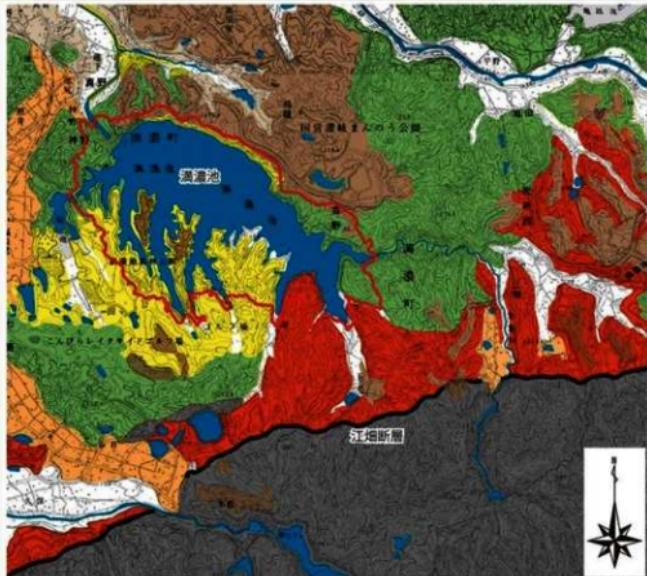


第2-2図 まんのう町地質図

## 2 満濃池及び周辺の詳細地質

満濃池周辺の地質については、これまで多くの研究成果が積み上げられている。以下、その概要を示す。

満濃池周辺の基盤地質は第2-3図に示すとおり、背後の讃岐山脈が和泉層群(白亜紀最後期約7,000年前)、周囲の丘陵は領家花崗岩類(白亜紀後期8,000万年前~9,000万年前)から成り立っている。堤体の基盤面及び両側の丘陵は領家花崗岩より形成されているが、それ以外の水面周囲の丘陵は領家花崗岩の上に三豊層群財田層が覆っている。三豊層群財田層は、第四紀の河湖成層であり、和泉層群に起因する砂岩礫・泥岩礫に加えて三波川変成岩類の片岩礫を含む。このうち、三波川変成岩礫は、四国山地から供給されたと考えられることから、三豊層群財田層が堆積した120~210万年前には、讃岐山脈が未だ隆起しておらず、古吉野川が香川県側へ流入していたと推定されている。



名勝指定地域

軽石基底礫岩層

焼尾峰層

低位段丘堆積物

江畑砂礫層

満濃池シルト~砂層

水域

領家花崗岩

中位段丘堆積物

第2-3図 満濃池周辺基盤地質図

更に、水面周辺の三豊層群財田層は、南岸が砂層、粘土質シルト層、花崗岩小・中礫を主体とする満濃池シルト・砂層、北岸は満濃池シルト・砂層の上位に和泉層群に由来する礫を主体とする扇状地性礫層である焼尾峠礫層が分布するなど、水面の南岸と北岸で表層地質が異なることが指摘されている。

これらの地質的条件により、池岸の地形は南岸が複雑に入り組んでいるのに対して北岸は直線的になるなど、対照的なものとなっているが、これらは南岸の満濃池シルト・砂層と北岸の焼尾峠礫層の層相や固結度等の相違が、開析作用の進行度の違いとなって現れた結果であると考えられる。

背後の讃岐山脈は、前述のとおり和泉層群によって形成されているが、池奥の五毛・江畠地区で東西の直線的な境界をもって急激に立ち上がる。この境界には江畠断層が存在しているために直線的な地形境界を成して讃岐山脈の急斜面へ移行している。

江畠断層は、約40万年前から120万年前の焼尾峠礫層に覆われていることからみて、数百万年間は断層活動を行っていないと考えられている。この江畠断層の存在により、視点場である堤体から南東への眺望は、三豊層群からなる広大な水面の周囲の比較的なだらかな丘陵に対し、背後の讃岐山脈が直線的に立ち上がるという、対照的な山容美が造り出されたと考えられる。低丘陵と山脈のみの組み合わせであれば県内の他地域でも見ることができるが、満濃池の場合は広大な水面を介することで一体的な風致景観が創出されている。

#### 引用・参考文献

- ・Akira Sangawa (1978) Geomorphic development of the Izumi and Sanuki Ranges and relating crustal movement. Sci. Rep. Tohoku Univ., 7 Ser. (Geography), 28, 313-338.
- ・古市光信(1984)香川県西部満濃町・琴南町の三豊層・四国北部新生代層の研究(その4)-, 香川県自然科学館研究報告第6卷, 29-36.
- ・長谷川修一・齊藤実(1989)讃岐平野の生いたちー第一瀬戸内類層群以降を中心にー, アーバンクボタ No.28, 52-59.
- ・植木岳雪・満潮大洸(1998)讃岐山地の隆起過程 鮮新～更新統三豊層群を指標にして, 地質学雑誌第107卷第4号, 247-267.
- ・長谷川修一・鶴田聖子(2013)讃岐ジオサイト(26)満濃池と江畠断層, 讃岐ジオサイト探訪－香川大学生涯学習教育研究センター研究報告(別冊)－, 114-115.
- ・香川県・徳島県(1972)土地分類基本調査 池田.

### 3 まんのう町の気候

香川県の平野部は、温暖で夏期に雨が少ない瀬戸内式気候区に属している。まんのう町には公式の気象観測所がないので(竜王山気象観測所では降水量のみ測定されている)、近隣の綾川町滝宮の気象観測所のデータを用いて説明する。

月降水量と月平均気温(1991～2020年の30年間の年平均値)を第2-4図に示す。

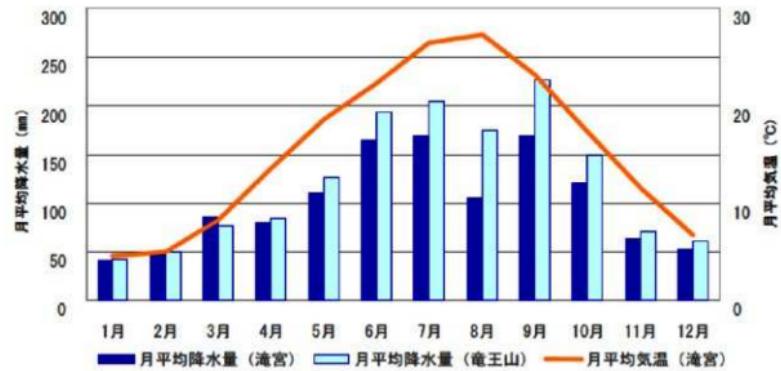
降水量は冬期(12～2月)に月50mm前後と少なく、夏期(6～9月)に多いが、6～7月及び9月が160～170mmを示すのに対して、8月が106mmと少ない瀬戸内式気候特有の2山型のバタ

ーンを示す。年降水量は1,209mmで、全国平均(約1,700mm)より約500mm少ない。

月平均気温は、1月が最寒月で4.5℃、8月が最暖月で27.3℃であり、滑らかな1山型のパターンを示す。年平均気温は15.4℃、暖温帯気候に属する。竜王山気象観測所では、気温は測定されていないが、標高が高くなることに伴う気温遞減率(約0.55℃/100m)を考慮すると、本町南部の讃岐山脈の標高800m以上は冷温帯気候に属すると考えられる。これに関しては、次の植生の項で説明する。

降水量と気温の年平均値は以上のとおりであるが、20世紀末から世界的に地球温暖化が指摘されており、気候変動に伴うと考えられる局地的豪雨も頻発している。年平均値(30年間の平均値)だけではなく、経年変化と近年の傾向についてもみておきたい。年降水量及び年平均気温の1980年からの経年変化を第2-4図に、また、10年間毎の平均値を第2-1表に示す。

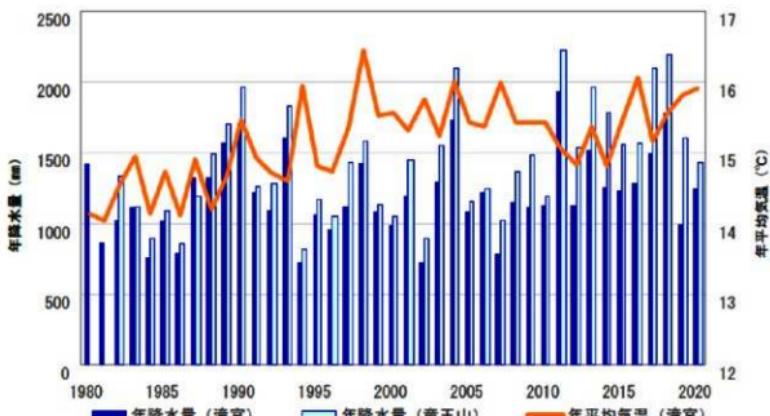
年降水量は、1981~2010年まで、1,100mm台の前半であったが、2011~2020年は1,376mmと大幅に増えている。細かくみると、2011年が1,926mm、2018年が1,763mm、2013年が1,504mmと続き、1,200mm以上が8年、1,000mm以下は2019年だけで、987mmであった。竜王山では2011~2020年の10年で、年1,500mm以上が9年、うち2,000mm以上が3年と、平野部以上に降水量が増加している。台風の大型化、コースの変化、気候変動に伴うと考えられる豪雨等の影響等が考えられる。



第2-4図 降水量・年平均気温の経年変化(1980~2020年)

少雨に悩まされてきた香川県及びまんのう町にとって降水量の増加は歓迎すべきことでもあるが、1日に200mm、2~3日で300~400mmの豪雨、特に山間部における豪雨は、災害の危険性も大きい。近年では2004年10月の台風23号により、町内の山間部において多数の崩壊や土石流が発生した。

年平均気温も、1980年代の14℃台半ばから2000年代には15℃台半ばへ約1℃上昇している。21世紀に入ってからはほぼ上昇が止まっているが、このまま上昇が停止するか、再び上昇に転ずるか、今後の動向に注意していく必要がある。



第2-5図 年降水量・年平均気温の経年変化(1980~2020年)

第2-1表 年降水量の平年値(単位:mm)

期間	滝宮	竜王山	高松
平年値(1981~2010)	1131	1295	1082
" (1991~2020)	1209	1462	1150
10年毎(1981~1990)	1141	1289	1088
" (1991~2000)	1120	1256	1103
" (2001~2010)	1132	1340	1056
" (2011~2020)	1376	1794	1292

※第2-4図、第2-5図、第2-1表とともに、「気象庁 | 過去の気象データ検索」のデータを利用。

#### 4 まんのう町の植生

植生は気候条件と密接に関係している。特に、降水量と気温が大きな要因であり、地理学的、植物生態学的に、第2-6図に示すような植生帯区分が認められている。図中の濃い桃色の範囲にほぼ日本の大部分が入っており、関東以西(西南日本ともいう)の平野部は温帯常緑樹林、北日本及び中部日本の高山帯は温帯落葉樹林に相当する。なお、温帯常緑樹林はシイ・カシ・クスノキなどの常緑広葉樹が代表的な樹種で、照葉樹林、暖温帯常緑広葉樹林ともいわれ、温帯落葉樹林はブナ・ミズナラなどの落葉広葉樹が代表的な樹種で、夏緑樹林、冷温帯落葉広葉樹林ともいわれる(第2-7図参照)。

まんのう町が位置する香川県の平野部は、年降水量1,100～1,300mm程度、年平均気温15℃前後であり、照葉樹林(暖温帯常緑広葉樹林)に相当する。隣の琴平町～善通寺にある象頭山(金刀比羅宮の社叢)は天然記念物に指定されているが、クスノキを中心とする照葉樹林(当地域の原生的自然植生)が残されていることが指定理由である。神域であり、古くから人為的影響が排除されてきたことによって残してきた貴重な森林である。

先に気候の項で述べたように、標高が高くなるにしたがって気温が低下することが知られており(約0.55℃/100m)、讃岐山脈の標高800m前後になると、暖かさの指数<sup>注1)</sup>が85を下回り、夏緑樹林(冷温帯落葉広葉樹林)に相当するが(第2-7図)、実際、ブナやイヌシデなどの落葉広葉樹の自然林が残されている。

さて、まんのう町の平野部、満濃池周辺の植生はどうであったか、中世以前については資料がなく、わからないが、江戸時代の資料(文書、絵画等)をみると、マツが多く描かれており、また、春には花見客で賑わったとあることから、アカマツを中心とするマツ林にヤマザクラなどの落葉広葉樹が混じる林であったことがわかる。この状況は、明治以降も変化なく(絵に描かれ、歌にも詠まれている)、1982(昭和57)年刊行の自然環境保全基礎調査(環境庁)でも、満濃池の周囲はほぼ全域がアカマツ林となっている(第2-8図)。

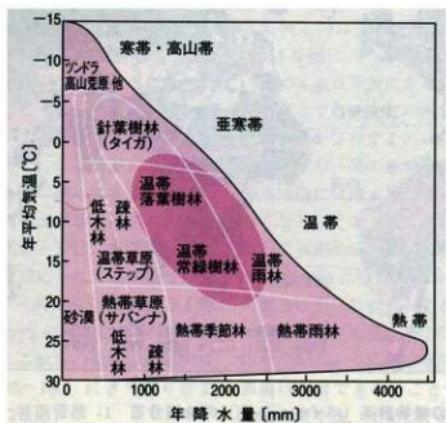
気候条件からみた当地の自然植生は照葉樹林であるが、人々が、薪炭林として、あるいは山菜や落葉落枝の採取場所として利用し、管理してきた結果、このような林が維持されてきたものと考えられる。

しかし、1980年代(昭和末期)、高度経済成長に伴う燃料革命、建材革命、肥料革命が当地にも及び、人々の森林離れ・木材離れが進み、森林の管理放棄がマツクイムシ被害の拡大に拍車をかけ、アカマツ林の衰退、広葉樹林への植生遷移が進行した<sup>注2)</sup>。

名勝指定に向けて実施した調査で、アカマツ林は大きく減少し、薬剤の樹幹注入で防除しているアカマツは生存しているが、防除していないアカマツはほぼ枯死し、多くがコナラ、アベマキ、クヌギ等の落葉広葉樹林へ、一部はアラカシやクスノキ等の常緑広葉樹が混じる林へと遷移してきていることが判明した(第2-9図)。また、一部に管理放棄された竹林の拡大がみられ、景観的にも防災的にも問題がある。

満濃池の堰堤からの景観として、江戸、明治以来、アカマツ林及びマツに混じって色を添えるヤマザクラやヤマツツジが描かれ、愛でられてきたが、植生遷移の進行で、これらの樹木は少なくなってきた。自然の植生遷移に委ねれば、落葉広葉樹林から常緑広葉樹林へと遷移していくことは間違いない。のこと自体は悪いことではないが、満濃池の堰堤からの眺望の中に、アカマツ林を残したい、あるいは、ヤマザクラやヤマツツジの花の景観を残したいということであれば、それなりの森林管理を行う必要がある。

満濃池周辺から背後の大川山～竜王山の稜線まで、どのような植生を保全し、あるいは創出していくべきか、人為的関与は如何にあるべきか、気候変動の影響も考慮しつつ、検討していくことが必要である。

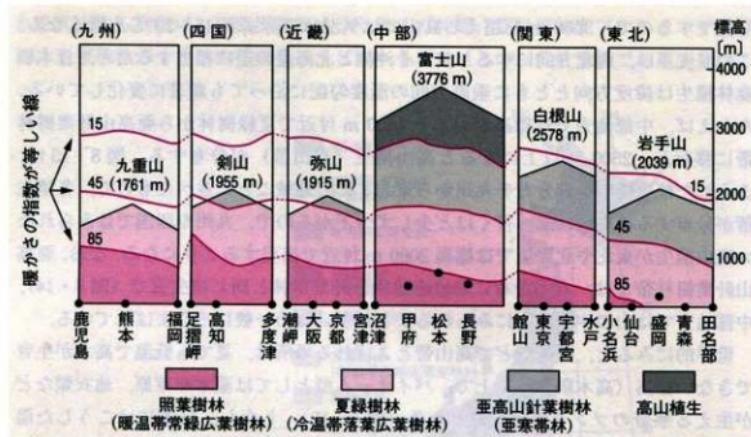


第2-6図 降水量と気温で区分された世界の主要なバイオーム

濃い桃色の部分は、日本の降水量と気温のおよその分布を示す。

R. H. Whittaker(1975)を改変。

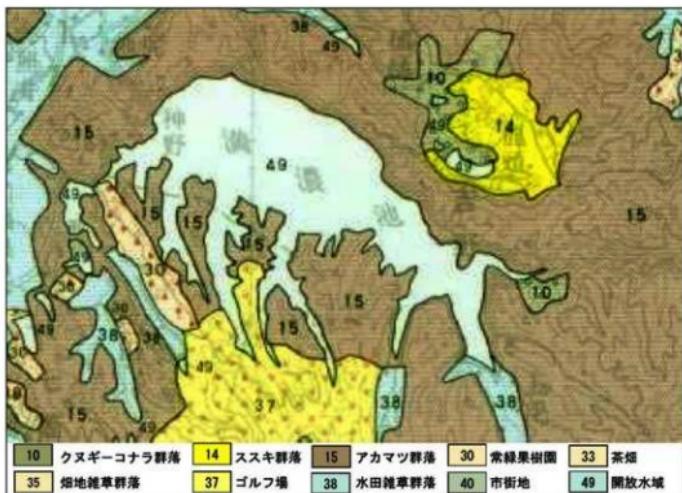
出典：日本生態学会編(2012)生態学入門(第2版)、東京化学同人



第2-7図 日本の森林植生の垂直植物と暖かさの指標の関係

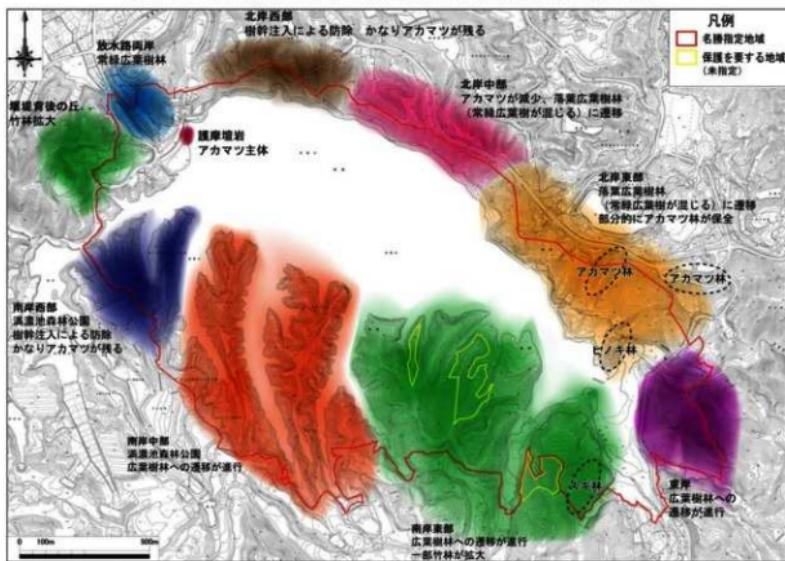
図には、暖かさの指標が 15、45、85℃・月と等しい標高を赤い線で結んである。吉良達夫(1949)を改変。

出典：日本生態学会編(2012)生態学入門(第2版)、東京化学同人



第2-8図 1980年頃の満濃池周辺の植生

出典：第2回自然環境保全基礎調査(植生調査)現存植生(1982)環境庁



第2-9図 満濃池周辺の植生の概況

出典：まんのう町教育委員会編(2018)満濃池名勝調査報告書に加筆

## 引用文献・参考文献

- ・日本生態学会編(2012)生態学入門(第2版)、東京化学同人
- ・第2回自然環境保全基礎調査(植生調査)現存植生(1982)環境庁
- ・末広喜代一ほか(1985)丘陵公園予定地とその周辺部の植生、昭和59年度満濃池動植物現況基礎調査、香川動植物の会
- ・末広喜代一ほか(1985)讃岐丘陵公園予定地の植物相と植生、国営讃岐丘陵公園(仮称)地域の動植物現況調査報告書、香川動植物の会

## 注1)暖かさの指標:

吉良達夫博士(植物生態学者)が考案した指数。月平均気温5℃以上を植物の生育可能な温度と考え、月平均気温5℃以上の月について、月平均気温から5℃を引いて、この温度を1年間積算した値。植生区分と密接に関係することが認められており、85~180が暖温帯常緑広葉樹林、45~85が冷温帯落葉広葉樹林に相当する。

## 注2)植生遷移:

陸上の植生(植物群落)は、自然界では、裸地から出発して、草地→低木林→高木林へと姿(樹種構成)を変えていくことが知られている。これを植生遷移という。高木林は、明るい環境に適応した陽樹林から、暗い環境に適応した陰樹林に遷移していく。この最終段階の陰樹林を「極相・極相林」という。西南日本(暖温帯)では、マツ林→クヌギ、コナラなどの落葉広葉樹林へ遷移し、最終的にシイ、カシ、クスノキなどの常緑広葉樹林で安定する(極相に至る)ことが認められている。

西南日本において、マツ林や落葉広葉樹林が長年にわって維持されてきたのは、人々が森に関わり、植生遷移の進行を止めていたことによる。森林が管理放棄されれば、止められていた植生遷移が動き出す(植生遷移が進行する)のが自然の理である。

## 第3節 歴史環境

## 1 まんのう町の歴史

まんのう町内には各時代・各種類の文化財が散在しているが、古代から中世にかけての重要な仏教関係遺跡が所在することが特徴である。白鳳・奈良期の古代寺院である弘安寺廃寺・佐岡寺跡、平安時代の山林寺院である国指定史跡中寺廃寺跡、平安時代後期から中世の山林寺院である尾背廃寺跡、平安時代後期の経塚群が所在する金剛院経塚、弘法大師空海との関係が深い満濃池・神野寺等である。これまでの断片的な調査から見えてくるものは、白鳳・奈良期の古代寺院、平安時代の古代山林寺院、平安時代後期～中世の山林寺院、経塚群という変遷の可能性が想定され、まんのう町に古代から中世にかけて華開いた仏教文化を物語る。

まんのう町の歴史のもう一つの特徴が、干ばつによる水不足によって独自の文化を育むこと

となった点であり、その代表的な事例が満濃池である。自然環境と人々との関わりの中で様々な歴史文化が育まれてきた。平野部では稻作農耕の開始以降、水田、灌漑水路の敷設等によって土地開発が進み、古代以降に条里地割が施行されており、現在も町内の平野部の多くで条理地割の痕跡がみられる。その後、各地で新田開発や、灌漑水路の整備や再整備が繰り返されていくが、降水量の少ない気候に加え、山が浅く河川が急流で、流水の利用が困難な環境によって、干ばつに悩まされてきた。そのため、満濃池に代表される谷地形や平野部の伏流水などの自然環境を利用したため池の築造が古くから行なわれてきた。こうした状況は今まで続き、これまでため池の築造などの治水事業が進められてきた。その結果、現在のため池総数は、町内で約900箇所に及ぶ。人為の及ばない干ばつについては、神仏へ踊りに合わせて歌や念仏を奉納することによって、降雨を祈願する綾子踊や大川念仏踊といった雨乞踊が行われてきた。二年に一度奉納される重要な無形民俗文化財綾子踊は初期歌舞伎踊の風情を色濃く残す小歌踊で、水の踊、四国踊、綾子踊、忍びの踊などの小歌に合わせて踊る。綾子踊の大きな特徴が男女女装であり小学生男子が「小踊」を、中学生男子から青年が「大踊」を演じる。地域一丸となって自然の猛威に立ち向かってきた姿は今も変わらず、住民一同が心を一つにして代々奉納を続けている。令和4年11月30日、ユネスコ無形文化遺産保護条約第17回政府間委員会において、まんのう町の綾子踊を含む風流踊がユネスコ無形文化遺産代表一覧表へ記載された。

## 2 まんのう町にある指定文化財等

まんのう町には国指定文化財が4件、国登録文化財が7件、県指定文化財が3件、町指定文化財が16件である。指定文化財の種別は有形文化財が14件(建造物3件、絵画2件、彫刻4件、書跡1件、考古資料4件)で最も多く、天然記念物の植物が4件、無形民俗文化財が3件、史跡と名勝が各1件となっている。また、満濃池はまんのう町で初めて名勝として指定された文化財である。

まんのう町内には各時代・各種類の文化財が散在しているが、中でも古代から中世にかけての重要な仏教関係遺跡が所在することが特徴である。それは白鳳・奈良期の古代寺院である弘安寺廃寺・佐岡寺跡、平安時代の山林寺院である国指定史跡中寺廃寺跡、平安時代後期から中世の山林寺院である尾背廃寺跡、平安時代後期の経塚群が所在する金剛院経塚、弘法大師空海との関係が深い国指定名勝満濃池・神野神社・神野寺等である。これらは中寺廃寺跡と満濃池を除き詳細な調査は行われていないが、これまでの断片的な調査から見えてくるものは、白鳳・奈良期の古代寺院、平安時代の古代山林寺院、平安時代後期～中世の山林寺院、経塚群という変遷の可能性があり、またこれらが約10kmの範囲内に所在し相互に関係した可能性が高く、まんのう町に「古代から中世にかけて華開いた仏教文化」を物語る貴重な文化財である。まんのう町では、中寺廃寺跡を始めとした町内仏教関係遺跡群を計画的に調査・整備し、地域住民が誇りと感じる貴重な文化財として保護するとともに、持続性の高い観光資源の核として周辺公共施設を含め、ボランティア団体・地元住民が主体となった各種イベントを開催するなどの活用を図ることにより、町の交流人口の増加を促し、より一層町の活性化を図ることを主眼に置き、継続的な調査を実施している。

第2-2表 まんのう町にある指定文化財等

文化財の種類			指定区分				
指定	有形文化財	重要文化財	建造物		3	3	
			美術工芸品		1	10	
	無形文化財	工芸技術等					
		有形民俗文化財					
	民俗文化財	無形民俗文化財		1	1	1	
		史跡		1		1	
	記念物	名勝		1		1	
		天然記念物	動物				
			植物	1	1	2	
	文化的景観						
	伝統的建造物群						
登録	有形文化財	建造物		7		7	
		計		11	3	16	
						30	





写真2-1 重要無形民俗文化財 縷子踊



写真2-2 登録有形文化財 満濃池樋門



写真2-3 登録有形文化財 重田家住宅主屋他5件



写真2-4 史跡 中寺庵寺跡遠景



写真2-5 天然記念物 天川神社社叢



写真2-6 香川県指定無形民俗文化財  
大川念佛踊



写真2-7 香川県指定天然記念物  
杉王神社のスギ



写真2-8 まんのう町指定有形文化財  
安造田東3号墳遺物



第2-3表 まんのう町にある指定・登録文化財一覧

国指定

名稱	指定区分	所在地	指定年月日	備考
満濃池	名跡	まんのう町神野	令和元年10月16日	
綾子浦	重要無形民俗文化財	まんのう町佐文	昭和51年 5月 4日	
天川神社社叢	天然記念物	まんのう町造田	昭和55年12月17日	
中寺廻寺跡	史跡	まんのう町造田	平成20年 3月28日	

国登録

名稱	登録区分	所在地	登録年月日	備考
満濃池植門	有形文化財	まんのう町神野	平成12年 2月15日	
重田家住宅主屋	有形文化財	まんのう町山脇	平成15年 9月19日	
重田家住宅長屋門	有形文化財	まんのう町山脇	平成15年 9月19日	
重田家住宅道具戸籠及び雪隠	有形文化財	まんのう町山脇	平成15年 9月19日	
重田家住宅米蔵	有形文化財	まんのう町山脇	平成15年 9月19日	
重田家住宅取合舟下	有形文化財	まんのう町山脇	平成15年 9月19日	
重田家住宅土蔵及び石垣擁壁	有形文化財	まんのう町山脇	平成15年 9月19日	

香川県指定

名稱	指定区分	所在地	指定年月日	備考
杉王神社のスギ	天然記念物	まんのう町川東	昭和46年 4月30日	
木造芭蕉立像	有形文化財(彫刻)	まんのう町賀田	昭和56年 4月21日	
大川急仏頭	無形民俗文化財	まんのう町中通	平成19年 3月30日	

まんのう町指定

名稱	指定区分	所在地	指定年月日	備考
木造地蔵菩薩立像	有形文化財(彫刻)	まんのう町七箇	昭和58年 3月24日	
木造薬師如来坐像	有形文化財(彫刻)	まんのう町賀田	昭和58年 3月24日	
木造薬師如来立像	有形文化財(彫刻)	まんのう町長尾	平成19年 2月27日	
絹本着色阿弥陀三尊像	有形文化財(絵画)	まんのう町勝浦	昭和59年 8月 1日	
絹本着色阿弥陀如来像	有形文化財(絵画)	まんのう町七箇	平成 9年 7月 1日	
蓮如筆執持妙文(紙本墨書き)	有形文化財(書籍)	まんのう町七箇	平成 9年 7月 1日	
十三仏亞堵婆	有形文化財(建築物)	まんのう町西条	平成14年 3月19日	
四つ足堂	有形文化財(建築物)	まんのう町勝浦	平成18年 2月10日	
金剛寺十三重塔	有形文化財(建築物)	まんのう町虎所東	平成22年11月30日	
安佐田東三号墳墳頂物	有形文化財(考古資料)	まんのう町中通	平成19年11月30日	出土地はまんのう町虎間
金剛寺遺物	有形文化財(考古資料)	まんのう町中通	平成21年 3月31日	出土地はまんのう町虎所東
弘安寺廃寺遺物	有形文化財(考古資料)	まんのう町中通	平成22年 3月31日	出土地はまんのう町四条
佐原遺跡出土樹創	有形文化財(考古資料)	まんのう町中通	平成29年11月28日	出土地はまんのう町佐原
三島神社湊立神像	無形民俗文化財	まんのう町長尾	平成18年 3月13日	
生間のイスノキ	天然記念物	まんのう町生間	平成24年 2月28日	
山藤 喜川家のツバキ	天然記念物	まんのう町山脇	平成24年 2月29日	

## 第4節 社会環境

### 1 まんのう町の人口と推移

2023(令和5)年2月1日時点のまんのう町の人口は 17,569 人で、世帯数は 7,444 世帯である。人口は減少基調で推移しており、平成 26 年から平成 31 年の推移をみると、琴南地区で約 16%、満濃地区で約 3%、仲南地区で約 8% の減少となっており、とりわけ、南部の中山間地域の定住対策が課題であることがわかる。

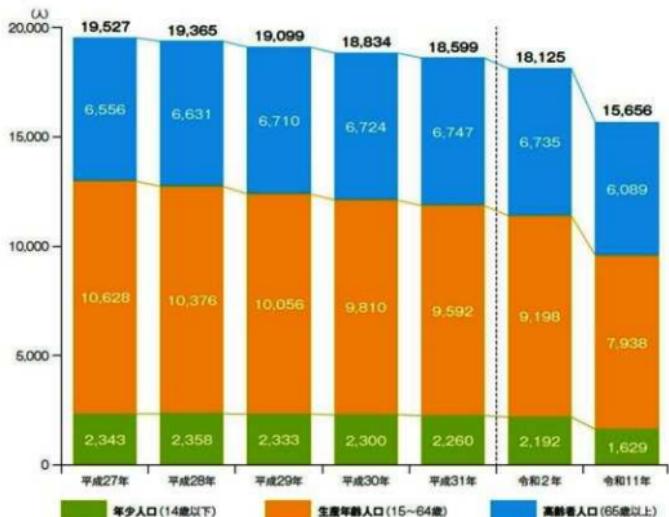
第2-11 図は令和 2 年 3 月に策定された「第2次まんのう町総合計画」において、平成 26 年から平成 31 年の人口推移を基に令和 2 年と令和 11 年の予測人口を示した図である。このままの傾向で推移すると、令和 11 年には 15,000 人台に減少し、横ばい傾向で推移してきた年少人

口(0~14歳人口)も10年間で500人以上減少すると推測される。

なお、実際の令和2年の人口は18,401人(年少人口2,215人、生産年齢人口9,448人、高齢者人口6,738人)であったため、予測モデルより若干緩やかな減少となっている。

	平成28年	平成31年	増減率
琴南地区	2,596	2,183	-15.9%
満濃地区	12,906	12,488	-3.2%
仲南地区	4,265	3,928	-7.9%
合計	19,767	18,599	-5.9%

資料:住民基本台帳(各年4月1日現在)



\*平成26年から平成31年までは住民基本台帳(各年4月1日現在)。

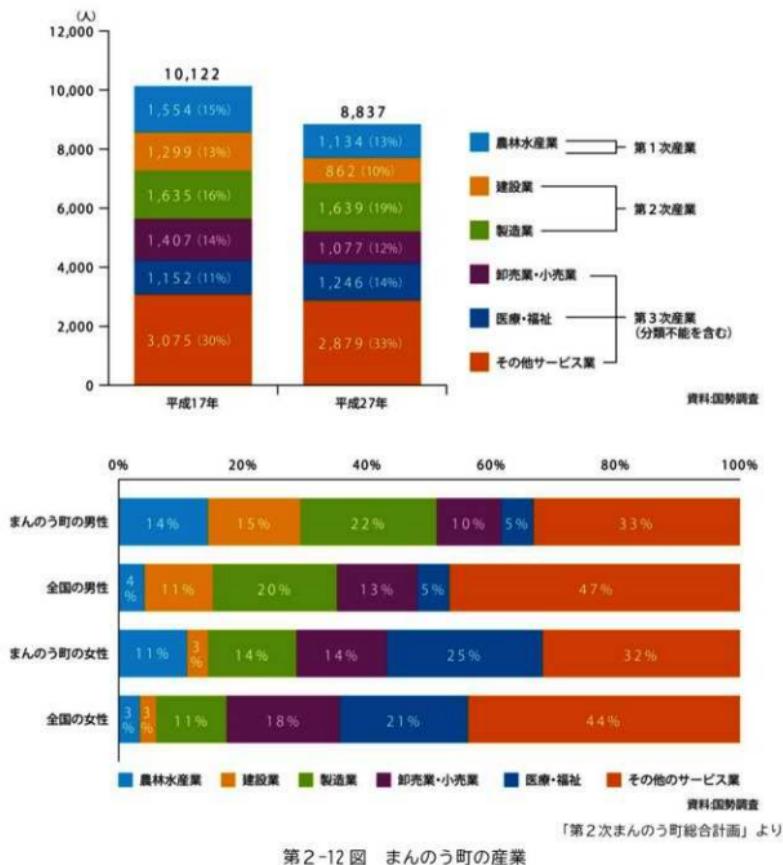
\*令和2年と令和11年は、平成26年と平成31年の住民基本台帳人口を「基準人口」としてコホート変化法により推計。

「第2次まんのう町総合計画」より引用

第2-11図 まんのう町の人口と推移

## 2 まんのう町の産業構造

平成27年国勢調査によると、まんのう町の就業者は8,837人で、10年さかのぼった平成17年から1割ほど減少している。産業区分別の構成比は、第1次産業が13%、第2次産業が28%、第3次産業(分類不能の産業を含む)が59%となっている。構成比を男女別に細かく見ると、男女とも、農林水産業の就業割合が全国平均より高く、男性の建設業や製造業、女性の医療・福祉の就業割合が全国平均より高いところにまんのう町の特徴がある。(第2-12図)



### 3 まんのう町の交通環境・観光資源・公園・社会教育施設

まんのう町は北部の満濃地区、南東部の琴南地区、南西部の仲南地区がある。まんのう町の交通環境について概観し、統いて地区ごとにまんのう町内に所在する観光資源・公園・社会教育施設について紹介する。

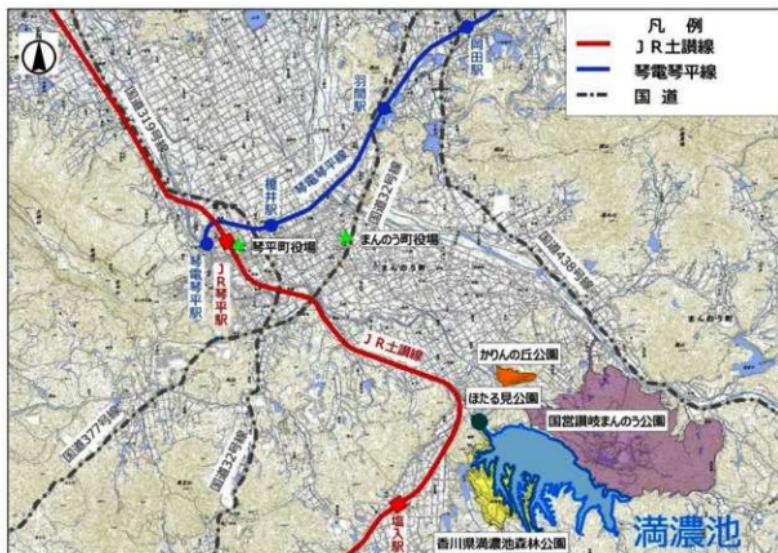
## (1)交通環境

まんのう町の主要幹線道路は国道32号が北から西へ走り、これに合流する国道319号と国道377号がある。また、国道438号は町域を北から南へと走り、徳島県へと至る。鉄道では、JR土讃線は塩入駅と黒川駅、高松琴平電気鉄道(通称ことでん)は羽間駅を有する。(第2-13図)

満濃池への車でのアクセスは、岡山・愛媛・高知方面からは、高松自動車道・善通寺ICより車で約25分、徳島方面からは、徳島自動車道・美馬ICより車で約40分である。

また、鉄道を利用する場合は、JR利用であれば琴平駅よりタクシーにて約15分、高松琴平電気鉄道利用であれば、琴平駅・岡田駅よりタクシーで約15分である。なお、駅から徒歩で向かう場合は、最寄りのJR塩入駅から約2kmである。

また、航空機を利用する場合は、高松空港からタクシーで約40分である。



第2-13図 満濃池へのアクセス

## (2)観光資源

## ・満濃地区

満濃地区的観光資源は間違いなく名勝満濃池である。周辺住民は満濃池を修築した弘法大師と満濃池に強い誇りと愛着を持っており自慢の満濃池である。弘法大師を、親しみを込めて「おお大師さん」と呼び、1932(昭和7)年～1934(昭和9)年に空海誕生千百年祭の記念事業を行い、廃れていた神野寺(空海創建)を満濃池堰堤左岸の丘陵に再興するとともに、同寺境内の満濃池

を見下ろす場所に弘法大師銅像を建立したことからもそれがわかる。毎年6月15日前後に行われる「ゆる抜き」は住民にとって古くから的一大イベントで、県内外から多くの観光客が訪れる。満濃池堰堤の北に建つ、かりん亭では、農家の女性グループが打つコシの強いうどんを味わうことができるほか、満濃地区特産のヤーコンを練り込んだヤーコンうどんが味わえる。また空海さんが唐より持ち帰り満濃池のほとりに植えたと伝わるかりんは町の名産となっており、かりんの加工品など満濃地区的名産品が店頭に並ぶ。



写真2-9 満濃池のゆる抜き



第2-14図 まんのう町観光資源位置図

#### ・琴南地区

琴南地区には香川県第1峰竜王山、第2峰大川山が連なり、いずれも1000mを超える。海辺の標高0m地点から登山道まで車で約1時間以内に到着することができる。市街地からの1000m級の山々へのアクセスの良さは全国的に見ても珍しい。大川山の西尾根に位置する平安時代

の寺院跡、中寺庵寺跡(標高約 720m)は北向きの眺望を遮るものがない、ほぼ香川県全域を見渡すことができる。国道 438 号沿いには四季折々の景色が美しい三霞洞渓谷などもあり、気軽に大自然に溶け込むことが可能である。それも平野部の端から屏風のごとく急激にそびえる讃岐山脈の成せる業であり、そういった地形の変化が見せる風景の美しさも観光における魅力である。なお、三霞洞渓谷は三角集落にあった渓谷を明治時代末に「三霞洞渓谷」の字を当て景勝地として喧伝されたものである。また、旧琴南町が当地に温泉施設を開発した際に「美霞洞」の字を用いるようになった。

近年のコロナ禍でのハイキング客の増加は平年の 10 倍を超えており、また標高 800m の高原地域ならではの蕎麦栽培も近年、力を入れている。「島が峰蕎麦」として花の時期には観賞会、道の駅エビアみかどでの新蕎麦販売や文化祭での新蕎麦振る舞い、観光客向けの蕎麦打ち体験「川奥そば打ち道場」の開設、また観光客が味わうことのできる店舗の出店なども計画されている。1980 年代に最盛期を迎えていた高原キャベツ栽培もそば栽培との二毛作作物として復活しており、平野部では味わえない柔らかな食感が好評を得ている。また作付面積は年々減少しているが、山から人の生活圏を通すことなく流れ込む水で栽培される米も非常に味が良い。山の恵みは豊かで、ほとんどの市町が平野に位置する香川では貴重である。

道の駅エビアみかどは日帰り温泉施設を併設している。平賀源内ゆかりの温泉として約 250 年の歴史があり、やや白く濁ったとろりとした湯で遠方からも訪れる客が後を絶たない。近隣の関西大手ホテルグループ経営の旅館では、同じ泉質の湯を楽しめる他、犬連れの宿泊、三霞洞渓谷散策などが楽しめる。アウトドアを満喫できる施設も充実している。ことなみ土器どき



写真2-10 大川山



写真2-11 三霞洞渓谷



写真2-12 エビアみかど

ひろばでは土器川の緩やかな流れの横に芝生の広場が広がり、親子連れがピクニックやバーベ場が広がり、親子連れがピクニックやバーベキューを楽しんでいる。健康ふれあいの里、大川山キャンプ場ではキャンプ施設が整っており、特に夏は多くの客でにぎわう。海沿いの街で開かれる瀬戸内国際芸術祭のようなアート企画を山間部にも届けようと 2013 年から始まったかがわ・山なみ芸術祭は、廃校や空き家、休耕田を利用した展示で全国より観光客を迎えている。

#### ・仲南地区

仲南地区的観光資源で一番に躍り出るのは「ひまわり」である。1983(昭和 58)年に小規模に始まったひまわり栽培は住民の地道な努力によって 18ha と大きく広がり、現在では JR 四国土讃線の観光列車「四国まんなか千年ものがたり」が観賞のために塩入駅に停車するまでになっている。町では開花速報なども出し、ひまわり畑の観賞に各地から多くの観光客が訪れ、例年 7 月にはひまわり祭りが行われる。ひまわりは、ひまわり油や焼酎「みちる」として加工され、町内各地で販売中である。特にひまわり油は近年の健康油ブームに乗り希少油として好評で、搾りかすを餌として与えられた牛が「ひまわり牛」ブランドとして生産され話題になっている。最近ではひまわりウエディングイベントなる新しい催しが試みられている。仲南地区は様々な農産物の生産が盛んで、たけのこも有名である。土壤がえぐみのないたけのこ栽培に向いており、たけのこの出荷数は県内一である。他に栗や桃などたくさんの新鮮な農産物が道の駅空の夢もみの木パーク内仲南産直市に並ぶ。野口ダムそばの山深い地に立地する塩入温泉は、ドライブがてら立ち寄るには打って付けの憩いの場となっている。併設されている塩入ふれあいロッジ・ふるさと研修館で宿泊もできる。



写真2-13 大川山キャンプ場



写真2-14 ひまわり畑



写真2-15 仲南産直市



写真2-16 塩入温泉

第2-4表 まんのう町観光資源一覧

観光資源	所在地	HPアドレス	電話番号
竜王山	勝浦	<a href="https://www.town.manno.lg.jp/kan/ko/yamaanuki/ryozan-samukazetougecourse.html">https://www.town.manno.lg.jp/kan/ko/yamaanuki/ryozan-samukazetougecourse.html</a>	まんのう町役場地域振興課 0877-73-0122
大川山	中通	<a href="https://www.town.manno.lg.jp/kan/ko/yamaanuki/ryozan-samukazetougecourse.html">https://www.town.manno.lg.jp/kan/ko/yamaanuki/ryozan-samukazetougecourse.html</a>	まんのう町役場地域振興課 0877-73-0122
三霞洞渓谷	勝浦	<a href="https://www.town.manno.lg.jp/kan/ko/yamaanuki/ryozan-samukazetougecourse.html">https://www.town.manno.lg.jp/kan/ko/yamaanuki/ryozan-samukazetougecourse.html</a>	まんのう町役場琴南支所 0877-85-2111
エビアみかど	川東2355-1	<a href="http://e-mikado.jp/">http://e-mikado.jp/</a>	(一財)ことなみ振興公社 0877-56-0015
川奥そば打ち道場	川東2748-6	—	まんのう町役場琴南支所 0877-85-2111
ことなみ土器どきひろば	造田	<a href="https://www.town.manno.lg.jp/kan/ko/asobu/kotonamidokidokihiroba.html">https://www.town.manno.lg.jp/kan/ko/asobu/kotonamidokidokihiroba.html</a>	まんのう町役場琴南支所 0877-85-2111
健康ふれあいの里	造田49-25	<a href="https://www.town.manno.lg.jp/kan/ko/asobu/kotonamidokidokihiroba.html">https://www.town.manno.lg.jp/kan/ko/asobu/kotonamidokidokihiroba.html</a>	(一財)ことなみ振興公社 0877-85-2020
大川山キャンプ場	中通1156	<a href="https://www.town.manno.lg.jp/kan/ko/asobu/kotonamidokidokihiroba.html">https://www.town.manno.lg.jp/kan/ko/asobu/kotonamidokidokihiroba.html</a>	(一財)ことなみ振興公社 0877-84-2165
ひまわり畑	帆山	<a href="https://www.town.manno.lg.jp/kan/ko/asobu/kotonamidokidokihiroba.html">https://www.town.manno.lg.jp/kan/ko/asobu/kotonamidokidokihiroba.html</a>	まんのう町役場地域振興課 0877-73-0122
仲南産直市	追上424-1	<a href="https://www.shioiri-onsen.jp/buy/">https://www.shioiri-onsen.jp/buy/</a>	(有)仲南振興公社 0877-75-1994
塩入温泉	塩入718-140	<a href="https://www.shioiri-onsen.jp/warm/">https://www.shioiri-onsen.jp/warm/</a>	(有)仲南振興公社 0877-78-3363
塩入ふれあいロッジ	塩入718-140	<a href="https://www.shioiri-onsen.jp/">https://www.shioiri-onsen.jp/</a>	(有)仲南振興公社 0877-78-3837
ふるさと研修館	塩入672-2	<a href="https://www.shioiri-onsen.jp/">https://www.shioiri-onsen.jp/</a>	(有)仲南振興公社 0877-78-3322
かりん亭	神野168-7	<a href="https://www.town.manno.lg.jp/kan/ko/taberu/karintel.html">https://www.town.manno.lg.jp/kan/ko/taberu/karintel.html</a>	0877-75-3335

## (3)公園

第2-15図・第2-16図に示す通り、まんのう町には満濃池を南北にはさむように自然環境を生かした公園が2件ある。満濃池北岸には国営讃岐まんのう公園がある。国営公園では年間を通して四季折々の花が何万株も植え替えられ、どのシーズンに訪問しても新しい風景を楽しむことができる他、自然の森の散策に加え、人工の滝、サイクリングコース、満濃池展望遊歩道、子ども向け大型遊具など様々なアクティビティを味わうことができる。毎年夏には、大型野外ライブが開かれ全国各地から若者が集う。

満濃池南岸には香川県満濃池森林公園がある。南岸の半島になった部分に遊歩道が整備され

散策しながら様々な植物や野鳥を観察することができる。特に春にはヤマザクラ、秋には色々なドングリを見ることができて楽しい。子ども向けの遊具も数多く設置されている。芝生の広場にはソメイヨシノが植えられ、春には弁当を携えた花見客が押し寄せ、場所取りに忙しい。

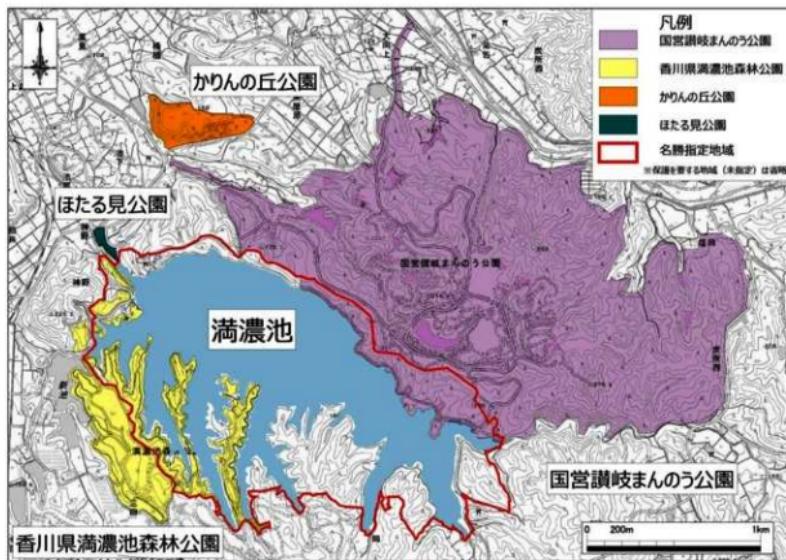
国の登録有形文化財満濃池樋門から西にはほたる見公園が整備されている。毎年6月15日前後の「ゆる抜き」は見物客がこちらから観賞するため大変賑わう。遊歩道沿いに紫陽花や牡丹が植えられ、台風後などにしか見ることのできない余水吐から満濃池の貯水が流れ出る珍しい現象「幻の滝」を見ることができる。遊歩道では梅雨前の風物詩として、ほたるを見を楽しむ人々が訪れる憩いの場である。

町営のかりんの丘公園は、休息・観賞・運動を目的とした総合公園で、少年野球・少年サッカー・ソフトボール・グラウンドゴルフ等のスポーツエリアと、大型複合遊具等も整備し、東屋や休憩施設も併設している。また、四国でも数少ない自転車・オートバイトライアルのモーターサイクルスポーツエリアも整備し、自然環境の景観を展望、散策しながら楽しむことができる。休日には町内外から子ども連れの家族が多く訪れる。

大川山山頂を中心とした県境の稜線に位置する大滝大川県立自然公園は、1992(平成4)年、香川県初の県立自然公園として指定された。公園地域は広大で、大滝山から竜王山を経て県道まんのう三野線の滝の奥峠に至る地域と大川山を中心とする地域で面積2,363haである。大滝山のブナ林や大川山のイヌシデ林などの貴重な自然林が残され、また、数多くの絶滅危惧種となっている昆虫や野鳥などが生息している。大川山山頂に位置する大川山キャンプ場等が野外レクリエーション施設として整備され、春から秋にかけて小・中学校の宿泊学習や、キャンプ客でにぎわう。



第2-15図 まんのう町公園位置図



第2-16図 まんのう町公園位置図(満濃池周辺)



写真2-17 国営讃岐まんのう公園



写真2-18 香川県満濃池森林公园



写真2-19 ほたる見公園



写真2-20 大滝大川県立自然公園イヌシデ林の霧氷

第2-5表 まんのう町公園一覧

公園	所在地	HPアドレス	電話番号
国営讃岐まんのう公園	吉野4243-12	<a href="https://sanukimannopark.jp/">https://sanukimannopark.jp/</a>	0877-79-1700
香川県満濃池森林公園	七箇4109-24	<a href="https://mannou-mori.com/">https://mannou-mori.com/</a>	0877-78-3364
ほたる見公園	吉野3270	<a href="https://www.town.manno.lg.jp/kan-ko/park/hototumikouen.html">https://www.town.manno.lg.jp/kan-ko/park/hototumikouen.html</a>	まんのう町役場建設土地改良課 0877-73-0107
かりんの丘公園	吉野4314-1	<a href="https://www.town.manno.lg.jp/kan-ko/park/karinnooka.html">https://www.town.manno.lg.jp/kan-ko/park/karinnooka.html</a>	まんのう町役場建設土地改良課 0877-73-0107
大滝大川県立自然公園	塩江町上西、まんのう町勝浦、中通	<a href="https://www.pref.kagawa.lg.jp/midorihozen/shizen/you-fo/otaki-kouen/about.html">https://www.pref.kagawa.lg.jp/midorihozen/shizen/you-fo/otaki-kouen/about.html</a>	香川県環境森林部みどり保全課 087-32-3214

## (4)社会教育施設

満濃池堰堤の北の小高い丘にまんのう町立かりん会館が建つ。満濃池に関する展示を行っており、実際に江戸時代に満濃池で使用していた木製ゆる、石製底樋、歴史の解説パネル等が展示され、満濃池を見学に来た方のためのガイダンス施設としての役割を担っている。また、年間を通して各種講演会や講座などが開かれ、見学者に限らず多くの来館者が訪れる。また、かりん会館を中心に活躍するボランティアグループである「まんのう池コイネット」は、事前予約により、満濃池の現地解説やかりん会館での展示説明や講座を実施している。コイネットは平成17年6月に設立されて以来、満濃池周辺のガイド、俳句大会、コンサート等を行い、満濃池の行楽的利用、学習の場としての利用をサポートする民間のボランティア団体である。

2013(平成25)年にオープンしたまんのう町立図書館では幼児向けのおはなし会やワークショップが充実している。まんのう天文台で撮影された星の写真が季節替わりで展示されているほか、安造田東3号墳出土モザイクガラス玉のレプリカ(ガラス工芸作家松島巖氏製作)が常設展示されている。

仲南支所横のまんのう町民文化ホールは収容人数389人で大規模な講演会等に利用される。教育委員会では毎年「森のコンサート」と題し、オーケストラを招いたコンサートを主催し、町内外のクラシックファンより好評を得ており、町内児童がクラシックに触れる機会となっている。



写真2-21 かりん会館 ゆるの展示



写真2-22 かりん会館での解説



写真2-23 まんのう町民文化ホール

道の駅空の夢もみの木パーク横の二宮忠八飛行館は、二宮忠八(1866～1936、明治～昭和期の軍人、実業家)が明治期、この地で飛行原理を考案したことから建設された。玉虫形飛行器の複製模型をはじめとした再現模型や書簡などが展示されており、年間を通して多くの来館者が訪れる。

同じく国道32号沿いの旧仲南北小学校にまんのう町民具展示室が整備されている。展示室は教室をリフォームしており、昭和初期の生活スペース、納屋をイメージして作られ、主に昭和20～30年代の衣・食・住の道具が集められている。展示物は一部触って体験することも可能である。収蔵室も含めると1,500点以上の収蔵品が収蔵されている。町内外から小学生が昔の暮らしの学習に訪れている。

琴南ふるさと資料館では町内の遺跡から出土した遺物や、文化財保護協会の研究報告などを展示している。国指定遺跡中寺廃寺跡から出土した錫杖、三鈷杵などの銅製品や、安造田東3号墳出土の子持高壺など貴重な遺物が常設され、まんのう町の歴史について学ぶことができる。町内の小学生が学習で見学に来る他、県内の文化財学習グループや公民館講座等の団体などがよく訪れる。

大川山山頂にあるまんのう天文台は、コンピューター制御の30cm反射望遠鏡と屈折式望遠鏡が設置された天体観測施設である。週末には天体観望会を実施し多くの利用者がある。また大川山キャンプ場の利用客の多くが天文台にも訪れ、2014(平成26)年のオープン当初より大変な人気を誇っている。

また、令和4年度には、まんのう町によって満濃池を一周できる周遊道が整備され、今後の活用が期待されている。



写真2-24 二宮忠八飛行館



写真2-25 まんのう町民具展示室



写真2-26 まんのう天文台



写真2-27 満濃池周遊道案内図



第2-17図 まんのう町社会教育施設位置図

第2-6表 まんのう町社会教育施設一覧

社会教育施設	所在地	HPアドレス	電話番号
かりん会館	神野168-7	<a href="https://www.town.manno.lg.jp/kankou/asobu/karinikaikan.html">https://www.town.manno.lg.jp/kankou/asobu/karinikaikan.html</a>	0877-75-0200
まんのう町立図書館	吉野下957	<a href="http://www.manno-library.jp/">http://www.manno-library.jp/</a>	0877-56-4055
まんのう町民文化ホール	生間415-1	<a href="https://www.town.manno.lg.jp/kurashi/kokyo/bukuna/chomin-bunka.html">https://www.town.manno.lg.jp/kurashi/kokyo/bukuna/chomin-bunka.html</a>	まんのう町教育委員会生涯学習課 仲南公民館 0877-77-2990
二宮忠八飛行館	追上358-1	<a href="http://chuhachi.netcrew.co.jp/">http://chuhachi.netcrew.co.jp/</a>	0877-75-2000
まんのう町民具展示室	宮田750-4	<a href="https://www.town.manno.lg.jp/kurashi/kurashi_guide/kyoiku/bunkazai/shiryokan/entry-715.html">https://www.town.manno.lg.jp/kurashi/kurashi_guide/kyoiku/bunkazai/shiryokan/entry-715.html</a>	まんのう町教育委員会生涯学習課 文化財室(琴南公民館内) 0877-85-2221
琴南ふるさと資料館	中通871-1	<a href="https://www.town.manno.lg.jp/kurashi/kurashi_guide/kyoiku/bunkazai/shiryokan/entry-511.html">https://www.town.manno.lg.jp/kurashi/kurashi_guide/kyoiku/bunkazai/shiryokan/entry-511.html</a>	まんのう町教育委員会生涯学習課 文化財室(琴南公民館内) 0877-85-2221
まんのう天文台	中通115-242	<a href="https://www.town.manno.lg.jp/kankou/tenmondai/mannonenmondai/">https://www.town.manno.lg.jp/kankou/tenmondai/mannenenmondai/</a>	0877-89-0619

#### 4 満濃池の受益範囲と用水系統

満濃池は、香川県の西部の丸亀平野を流れる金倉川の上流域にあたる仲多度郡まんのう町に所在する。堤高 32m、堤長 155.8m を測る堰堤によって、讃岐山脈から派生した丘陵狭窄部の一か所を堰き止めて築造するダム式のため池であり、約 1,540 万 m<sup>3</sup> の水を貯えている。これは農業用のため池としては、貯水容量国内第一の規模を誇るものである。現在の満濃池の灌漑範囲(受益面積)は、金倉川や用水路を伝って、丸亀平野の丸亀市、善通寺市、多度津町、琴平町、まんのう町の 2 市 3 町からなる 2,638ha(平成 29 年度)におよび香川県域耕地面積 30,800ha(平成 28 年度)の約 1 割に匹敵する農地を潤している。

『続日本紀』によれば、讃岐国は 697(文武天皇元)年から 791(延暦 10)年までの間に 17 回の飢饉の記事がみられる。これは、降雨が少ないという気象条件の他に、大河川がなく平地の大部分が、河川勾配の急な扇状地性の沖積平野から構成されていることによる。背後の讃岐山脈への降雨は、扇状地性の平野の地下の礫層へと浸透するか、河川を流下したとしても早期に瀬戸内海へ流出してしまうという地形条件が影響している。

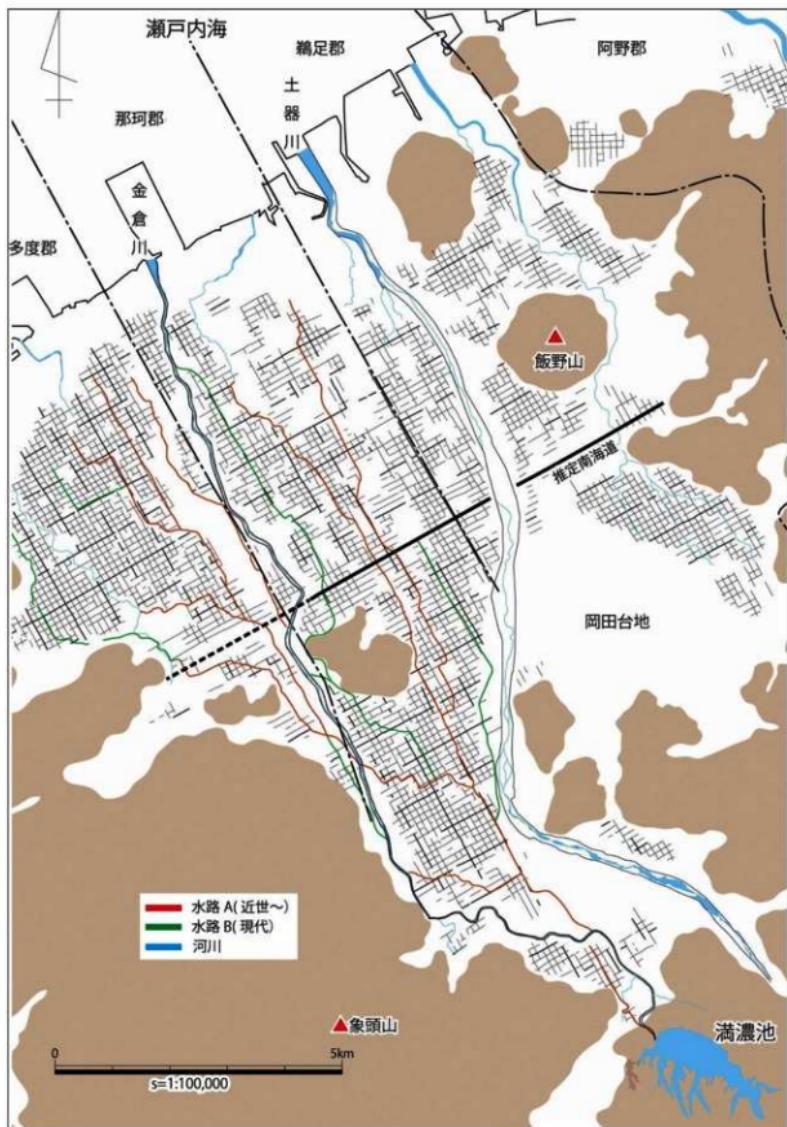
満濃池が築造された古代には、平野部を中心として条里地割に基づく大がかりな耕地開発が進められ、丸亀平野のように大河川がなく、恒常に河川流量が少ない地域においては、ため池などの貯水源の確保が必要とされた。満濃池は平野の最奥部にあり水源と用水路を兼ねた金倉川を巧みに使用した築造位置やその巨大な規模からみて、築造の主たる目的は、丸亀平野西部の大規模な耕地開発にあったと考えられる。

満濃池の灌漑範囲を示す最も遡る史料として 1641(寛永 18)年の「満濃池水懸り申候村高之帳」がある。同史料は、仲郡(那珂 21 村)・宇多郡(鶴足 8 村)・多度郡(17 村)の各大庄屋が村高や満濃池の水掛かり等の課役を規定したもので、各灌漑受益の村の分布は現在のそれとほぼ同じ広がりをもっている。江戸中期の「讃州那珂郡分間画図」や 1870(明治 3)年の「満濃池水掛村々之図」からは、当時の満濃池からの幹線水路の敷設状況をうかがい知ることができる。これらの幹線水路は 1641(寛永 18)年の「満濃池水懸り申候村高之帳」にみえる各灌漑受益の村々を網羅しており、近代以降も数回の改修工事を経ながらも現在まで使用されているものである。

第 2-18 図は、現在の幹線水路の敷設状況と丸亀平野の条里地割を重ねて図示した。これらの幹線水路は条里地割に合致しており、江戸中期の「讃州那珂郡分間画図」や 1870(明治 3)年の「満濃池水掛村々之図」にみえる丸亀平野西部の広大な灌漑範囲は、古代に遡る可能性を示唆している。このことは、満濃池が築造初期の古代、再築後の近世から現代に至るまで、丸亀平野の重要な灌漑水源として大きな社会的価値を有していることを物語っている。

#### 引用・参考文献

- まんのう町教育委員会(2019)第2章 歴史的環境、満濃池名勝調査報告書、9-13.



第2-18図 丸亀平野の条里地割と満濃池の灌漑路

## 5 満濃池の名所等の選定状況

満濃池は、名所等の選定のかたちをとって、名所としての価値付けがなされてきた。

満濃池はこれまで、新さぬき百景、四国のみち、ため池 100 選、残したい“日本の音風景 100 選”、香川のみどり百選、ダム湖百選、地域活性化に役立つ近代化産業遺産、ため池百選、世界かんがい施設遺産として選定されおり、これらは指定等のような法的措置を伴うものではないが、名勝地として存在し続ける満濃池の風致景観の観賞に彩りを添えるものである。

第2-7表 満濃池の名所等の選定状況一覧

選定の名称	選定年	選定主体	概要
新さぬき百景	昭和 43 年 (1968)	㈱四国新聞社	明治百年、四国新聞創刊 80 年記念事業の一環として選定された。
四国のみち (四国自然歩道)	昭和 62 年 (1987) ※整備着手	環境庁 ※香川県が整備	全長 1545.6km の長距離自然歩道。四国霊場や、各地に点在する身近な自然や歴史に親しみ、徒步で四国を一周する。満濃池の堰堤や池岸を通る全長 6.9 km の「満濃池とカリンのみち」が選定された。
ため池 100 選	昭和 54 年 (1979)	㈱四国新聞社	創刊 90 周年記念事業の一環。県下のため池が貯水量の多い順よりランクインした。
残したい 日本の音風景 100 選	平成 8 年 (1996)	環境庁	人々が地域のシンボルとして大切にし、将来に残していくたいと願っている音の聞こえる環境(音風景)から、「満濃池のゆるぬきとせせらぎ」が選定された。
香川のみどり百選	平成 16 年 (2004)	香川県	香川特有の気候風土の下で、祖先が生活の中で形づくり、守り育ててきた、美しい郷土のみどりの中から「百選」を選定された。
ダム湖百選	平成 17 年 (2005)	㈱ダム水源地理 境整備センター	降雨の少ない香川県に造られた日本最大のため池であり、歴史的価値、社会的価値、憩いの場としての価値が高い点が評価された。
地域活性化に役立つ 近代化産業遺産	平成 21 年 (2009)	経済産業省	1914(大正 3 )年に全ての樋がコンクリートや花崗岩に取替えられるとともに、相次ぐ嵩上げなど、近代技術による改良が図られた点が評価された。
ため池百選	平成 22 年 (2010)	農林水産省	農業の礎を担う貴重な水源であるとともに、特色ある伝統、文化、景観、豊かな生態系を育む地域の財産であることが評価された。
世界かんがい施設遺産	平成 28 年 (2016)	国際かんがい排水委員会(ICID)	灌漑農業の画期的な発展等に資するもの、構想・設計・施工・規模等が当時としては先進的なもの、長期にわたり特筆すべき運営・管理を行ってきたものとして評価された。

## 6 満濃池周辺の土地利用と法規制

満濃池周辺は古来より現在に至るまでさまざまな土地利用が行われてきた地域であり、都市計画法、文化財保護法、都市公園法、香川県森林公園条例、河川法、道路法、土砂災害防止法、森林法等の各種の法規制等がある。(第2-19図)

### (1)都市計画区域

満濃池北岸は、都市計画法(1968<昭和43>年6月15日法律第100号)第5条に基づき、香川県が指定する都市計画区域に含まれており、都市公園として国営讃岐まんのう公園が設置されている。

### (2)文化財保護法による周知の埋蔵文化財包蔵地

文化財保護法(1950<昭和25>年5月30日法律第214号)第93条により周知の埋蔵文化財包蔵地として、14箇所が香川県遺跡台帳及びまんのう町遺跡台帳に登載され、周知されている。

### (3)都市公園法並びに香川県森林公園条例による公園区域

満濃池周辺には、国営讃岐まんのう公園、香川県満濃池森林公園がある。

国営讃岐まんのう公園は、350haの面積を有し、1998(平成10)年に第1期開園、2013(平成25)年に全面開園した。

香川県満濃池森林公園は満濃池南西の丘陵地に位置し、満濃池南西岸の半島が含まれる。1988(昭和63)年に開園した。

### (4)河川法に基づく河川区域

満濃池は二級河川金倉川を堰き止めて作られたため池であるため、満濃池の水面を含む金倉川全域は河川法(1964<昭和39>年7月10日法律第167号)第10条第1項により、香川県が管理する河川区域に含まれる。

### (5)道路法に基づく道路区域

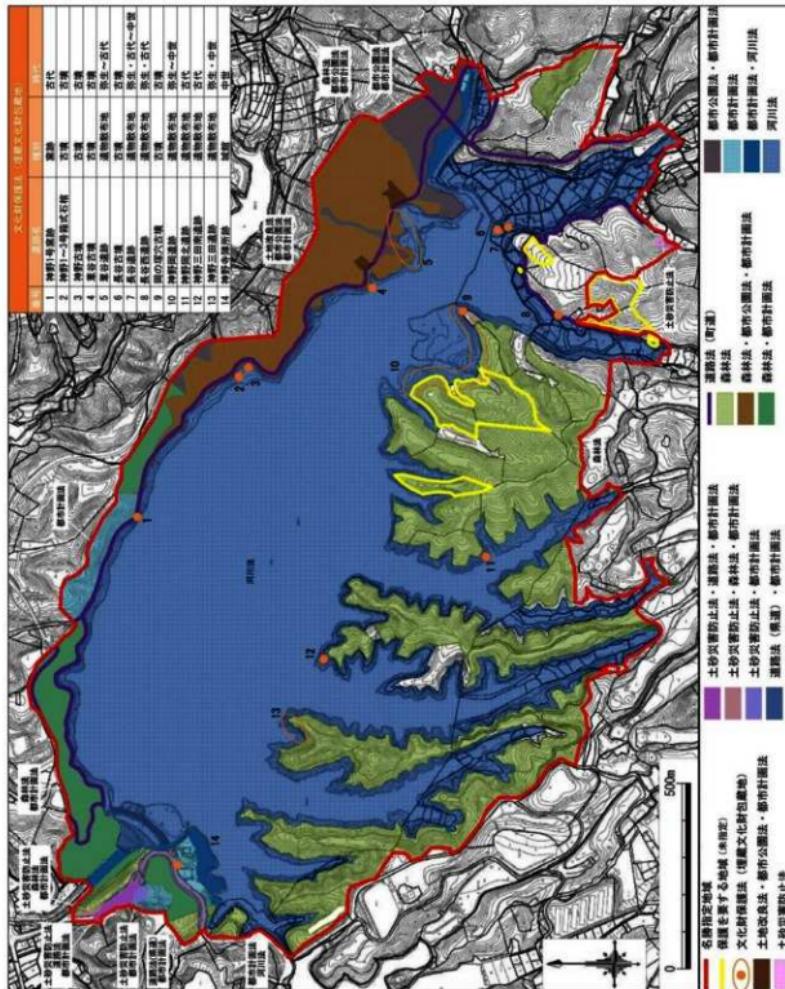
満濃池周辺には県道200号まんのう善通寺線、町道三田線、町道かりん線、町道五毛線、町道桶樋五毛線、町道長谷線がある。

### (6)土砂災害防止法に基づく土砂災害警戒区域

満濃池南東の五毛地区および堤体の北西付近には、土砂災害警戒区域がある。

### (7)森林法に基づく保安林区域

満濃池周辺は森林法(1951<昭和26>年6月26日法律第249号)第25条に基づく「土砂流出防備保安林」であり、香川県満濃池森林公園内においては「保健保安林」と一部重複する。



第2-19図 満濃池周辺の土地利用と法規制一覧図